

豊川市図書館基本計画 (案)

令和●年●月
豊川市

目次（案）

第1章	計画の策定にあたって	1
1-1	計画策定の背景	1
1-2	計画の位置づけ	2
1-3	計画の期間	2
第2章	図書館を取り巻く現状	3
2-1	社会的背景	3
2-2	国、県の動向	5
第3章	市図書館の現状	6
3-1	市図書館の概要	6
3-2	図書館サービスの状況	8
3-3	市民アンケートの調査結果	12
3-4	前計画における取組状況	17
3-5	計画策定に向けた課題	20
第4章	図書館基本計画の基本的な考え方と目標	22
4-1	基本理念	22
4-2	基本目標	23
4-3	市図書館の管理運営に関する基本方針	24
4-4	計画の体系	26
4-5	成果指標	27
第5章	計画推進のための取り組み	28
	基本目標 1 利用しやすい図書館	28
	基本目標 2 人が集まる図書館	36
	基本目標 3 ためになる図書館	41
第6章	計画の推進に向けて	48
6-1	計画の推進体制	48
資料編		49
資-1	法律、条令、規則等	49
資-2	アンケート調査の結果	49
資-3	用語解説	49

はじめに

本市の図書館は、平成 24 年 4 月 1 日に策定した「豊川市図書館基本計画～知と情報の空間を目指して～」に基づき、今年度までの 10 年間、少子高齢化社会の到来や国際化及び高度情報化社会への進展など、社会情勢の変化への対応を心掛けるとともに、生涯学習時代に対応した市民の自主的な学習の支援や地域の情報拠点として図書館に期待される役割を果たすべく運営をしてきました。また、全国的な問題として指摘されていた子どもの「読書離れ」、「活字離れ」については、平成 13 年 12 月 12 日施行の「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、前計画と並行して平成 23 年 3 月に「(第 1 次) 豊川市子ども読書活動推進計画」を、平成 28 年 3 月には「(第 2 次) 豊川市子ども読書活動推進計画」を策定し、その対策に重点的に取り組んできました。

前計画の策定後も、平成 28 年 2 月 1 日からの「豊川市電子図書館」のオープンや、平成 28 年 4 月 1 日の「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行、令和元年 6 月 28 日の「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」の施行など、取り組むべき課題は多く、前計画への掲載の有無にかかわらず、その都度、その時点の社会状況や市民ニーズを踏まえて、図書館の運営に努めてきました。

そうした中、昨年当初からにわかに発生した新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和 2 年 3 月から 5 月の 3 か月間にも渡り、図書館が臨時休館を余儀なくされるという、これまでにない状況となり、図書館の必要性を、改めて強く認識することとなりました。

このような背景を踏まえ、前計画の計画期間が満了することから、令和 2 年度に市民に向けて実施した「図書館・読書に関するアンケート」などの結果や図書館協議会の意見を踏まえ、これから 10 年間の本市の図書館運営の基本方針を定める新たな「豊川市図書館基本計画」を策定しました。

本市の図書館が、市民の皆さまにとって、より役に立ち、より利用しやすい、誰もが集える親しみやすい場所となるよう取り組んでまいりますので、ぜひ、これまで以上に活用していただければと思います。

豊川市教育委員会
中央図書館

第 1 章 計画の策定にあたって

1-1 計画策定の背景

本市では、平成 24 年 4 月に「豊川市図書館基本計画（以下「前計画」という。）」を策定し、この地域における知識と情報の提供を行う拠点として「人と地域と学びのために～知と情報の空間を目指して～」を基本理念に豊川市図書館（以下「市図書館」という。）の運営に取り組んできました。

この間、少子高齢化社会が進み、人口減少、国際化や高度情報化社会への進展、社会経済、生涯学習・教育環境など、社会情勢は大きく変化してきています。

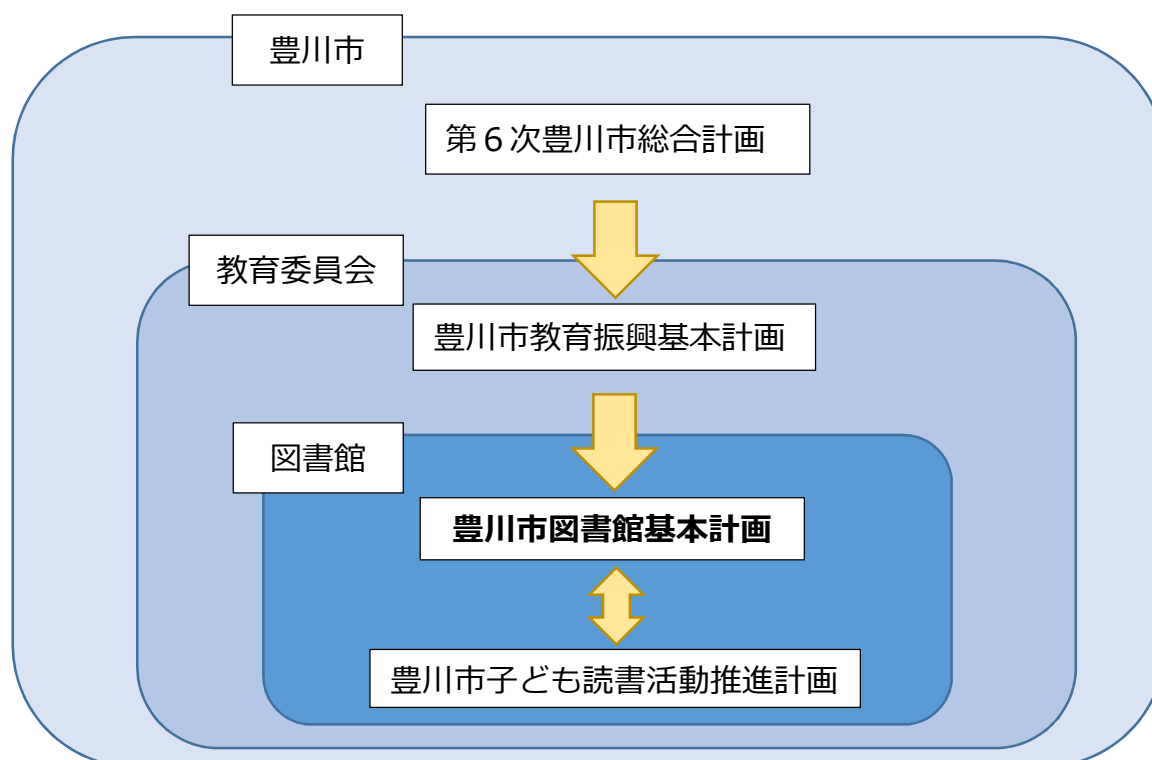
また、個人のニーズも多様化し、より幅広いサービス、より高度な専門性が求められていることに加え、新型コロナウイルス感染症による「新しい生活様式」への対応など図書館を取り巻く環境も変化してきています。

こうした状況の中、知識と情報を提供する拠点として、社会情勢の変化に対応しつつ、地域課題の解決のためのサービスの提供を行っていくため、図書館が持つ意義や果たすべき役割を十分に認識するとともに、教育関係者や地域住民等とも連携・協力し、多様化する市民ニーズに寄り添い、「市民の生活を支援する図書館」、「地域や住民に役立つ図書館」として誰もが身近に感じて、気軽に利用でき、人が集まり、学べる図書館運営に取り組んでいかなければなりません。

このような背景を踏まえ、前計画の計画期間が満了することから、本市の今後の図書館運営・サービスの取組の方向性を示す新たな計画を策定することとしました。

1-2 計画の位置づけ

この計画は、『第6次豊川市総合計画』で掲げている「政策4 教育・文化」に関係し、また、教育基本法第17条第2項の規定に基づく教育振興のための施策に関する基本的な計画である『第3期豊川市教育振興基本計画』と整合を図り、市図書館の運営に必要な施策を実現するための計画です。



市図書館に関する個別計画として本計画とともに「豊川市子ども読書活動推進計画」がありますが、子ども読書にかかる具体的取組については、「第2次豊川市子ども読書活動推進計画」及び実施計画において進捗管理しています。

1-3 計画の期間

本計画は、令和4年度から令和13年度までの10年間を計画期間とします。

第2章 図書館を取り巻く現状

2-1 社会的背景

(1) 少子高齢化と人生 100 年時代の到来

我が国の人口は、平成 20 年をピークとして減少傾向にあり、令和 12 年にかけて 20 代、30 代の若い世代が約 2 割減少するほか、65 歳以上の高齢者が総人口の 3 割を超えるなど生産年齢人口の減少が加速することが予測されています。また、医学の進歩と健康意識の高まりなどにより平均寿命が延び「人生 100 年時代」を迎えようとしており、誰もが必要な分野をあらゆる機会に能動的に学び続ける環境づくりが求められています。

(2) 地域のつながりの希薄化・家族形態の変化

近年、個人の価値観や自由が尊重される一方で、近所付き合いの希薄化により地縁的つながりは徐々に衰退し、また、核家族化等による小規模世帯の増加や外国人世帯の増加など、変化しつつある家族の形態・生活様式への対応が求められています。

(3) 協働によるまちづくりの進展

社会環境の変化は、新たな課題を生み出し、画一的な行政のサービスだけでは、地域の実情に応じた課題解決は困難となっており、多くの自治体では、地域住民と協働で地域課題を発見し、解決していく取り組みが進められています。

(4) 高度情報化、ICT 化の進展

高度情報化による ICT (Information and Communication Technology) の進展は生活の隅々にまで浸透して社会基盤を形成しつつあります。スマートフォンの普及によってインターネットの利用時間が増え続けており、また、SNS の普及による人々のライフスタイルや価値観に応じた情報の発信など、今後もより深く生活に密着していくものと考えられます。特に情報面では、世界中の情報が即座に手に入ることとなり、情報の発信・提供者側のあり方についても劇的な変化をもたらしてきており、情報の受け手側を意識した発信が求められています。また、情報の受け手側も自分にとって必要な情報を適切に取捨選択する力と知識が必要となってきています。

(5) 災害への備え

近年、地震や豪雨など異常気象に伴う記録的な風水害など自然災害が発生し、また、感染症の流行・拡大により社会経済活動が抑制され、日常生活にも多くの影響を受けています。災害等への備えや「新しい生活様式」への柔軟な対応が求められています。

(6)持続可能な開発目標（SDGs）への対応

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）は、平成27年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された平成28年から令和12年までの国際目標です。持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現するため貧困、飢餓、教育、雇用、環境など17のゴールから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。

国は、平成28年に「持続可能な開発の目標（SDGs）実施指針」を策定し、「持続可能で、強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の統合的向上が実現された未来への先駆者を目指す」というビジョンを掲げ、本計画においてもこの取組目標を踏まえた事業の展開が求められています。



■SDGs17のゴール

資料：国連広報センターHP



■図書館に関係の深いゴール

2-2 国、県の動向

・図書館の設置及び運営上の望ましい基準

国における図書館行政としては、昭和 25 年 4 月に図書館法が公布され、平成 13 年 7 月に同法第 18 条に基づき「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」が発表されました。平成 24 年 12 月には、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」に改正され、図書館が多様なボランティア活動等の機会・場所の提供を行うこと、知識基盤社会において地域の情報拠点等として地域課題の複雑化・多様化に対応すること、設置目的を達成するために必要な管理運営体制を構築すべきことなどの指針が示されました。

・障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）

すべての国民が障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障害を理由とする差別の解消を推進することを目的として、平成 25 年 6 月に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（平成 25 年法律第 65 号）（以下「障害者差別解消法」という。）が制定され、平成 28 年 4 月 1 日から施行されました。

この法律により公立図書館を含む公的機関には、障害者への社会的障壁の除去の実施に係る必要かつ合理的な配慮の提供が義務付けられました。

・子ども読書活動の推進に関する法律（子ども読書活動推進法）

子どもの読書離れが問題となったことから、平成 13 年 12 月に「子ども読書活動の推進に関する法律」（平成 13 年法律第 154 号）（以下「子ども読書活動推進法」という。）が成立し、平成 30 年 4 月に閣議決定された「第四次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」では、中学生までの読書習慣、高校生になり読書の関心度合いの低下、スマートフォンの普及等による読書環境への影響の可能性という現状分析の下、発達段階に応じた取組や友人同士で本を薦め合うなど、読書への関心を高める取組を充実するなど、読書習慣の形成に向けた施策の推進が必要とされています。

愛知県では、平成 31 年 4 月に「愛知県子供読書活動推進計画（第四次）」が策定されています。

・視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）

令和元年 6 月に「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（令和元年法律第 49 号）（以下、「読書バリアフリー法」という。）が施行され、障害の有無にかかわらず、全ての国民が等しく読書を通じて、文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現に向けて、国や地方公共団体が視覚障害者等（視覚障害、発達障害、肢体不自由等の障害により視覚による表現の認識が困難な者）の読書環境の整備を総合的かつ効果的に推進することとしており、令和 2 年 7 月、文部科学省及び厚生労働省は、「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画」を公表しました。同計画は、視覚障害者等の読書環境の整備を通じ、障害者の社会参加・活躍の推進や共生社会の実現を目指すものです。

愛知県では、令和 3 年 3 月に「あいち障害者福祉プラン 2021-2026」を策定し、当該プランは、読書バリアフリー法第 8 条に基づき策定する「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する計画」としての性格も併せ持つものと位置づけています。

第3章 市図書館の現状

3-1 市図書館の概要

(1) 図書施設の概要

市図書館は、中央館1、分館4（音羽、御津、一宮、小坂井）が整備されています。中央図書館には、ジオスペース館が併設されており、プラネタリウムが設置されています。また、4つの分館は、生涯学習センターや文化会館などの公共施設と併設されています。

中でも、令和3年5月にリニューアルオープンした小坂井図書館は、豊川市のファシリティマネジメントの一環として公共施設適正配置計画で位置付けたリーディング事業の一つ「小坂井エリアの施設再編」によって、支所、生涯学習センター、児童館、高齢者相談センターを統合した複合施設「こぞかい葵風館」の中に設置されており、利用者の増加が見込まれます。

一宮、音羽、御津の各分館についても公共施設適正配置計画に基づき、各地区のリーディング事業による複合施設の今後の再編の一部として検討されています。



■ 中央図書館



■ 小坂井図書館

■ 各館の施設概要

項目/館名	中央図書館	音羽図書館	御津図書館	一宮図書館	小坂井図書館
住所	諏訪1丁目 63番地	赤坂町 西裏47番地の1	御津町 広石日暮146番地	上長山町小南口原 1の500番地	小坂井町 大堀10番地
敷地面積	9,130.23㎡	7,209.0㎡	7,403.2㎡	4,011.0㎡	6,924.64㎡
延べ床面積	5,772.7㎡ ※ジオスペース館 753.4㎡を含む	725.51㎡	925.14㎡	191.43㎡	675.77㎡
構造	鉄筋コンクリート造・ 一部鉄骨鉄筋コンクリート造・ 一部鉄骨地上2階、地下1階	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造地上2階	鉄筋コンクリート造 地上2階	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造地上2階	鉄骨造2階建て
蔵書能力	45万冊 (開架15万冊、 閉架30万冊)	約5万冊 (開架2万8千冊、 閉架2万2千冊)	約7万6千冊 (開架5万冊、 閉架2万6千冊)	約3万5千冊 (開架3万冊、 閉架5千冊)	約4万冊 (開架3万冊、 閉架1万冊)
駐車台数	自家用車120台 自転車193台	自家用車30台 自転車20台	自家用車50台 自転車40台	自家用車51台 自転車30台	自家用車56台 自転車53台
併設施設	ジオスペース館	音羽生涯学習センター	御津文化会館 (ハートフルホール)	一宮生涯学習センター	小坂井支所、 小坂井生涯学習センター、 こぞかい児童館、 南部高齢者相談センター 小坂井出張所

資料：豊川市図書館概要

(2) 市図書館の運営形態

① 開館時間・休館日等

館名	中央図書館	音羽図書館 御津図書館	一宮図書館 小坂井図書館
開館時間	・午前9時30分～午後6時 (金曜日は休日を除き、午後7時まで) ・夏期(6～9月)期間中の休日を除く 火～金曜日は、午後7時まで	・午前9時～午後5時	・午前10時～午後6時
休館日等	・月曜日 (休日にあたる日を除く)	・月曜日 (休日の場合は開館し、翌火曜日を休館)	・月曜日
	・12/29～1/4 ・毎月第3水曜日(その日が休日にあたる時は、その翌日) ・特別整理日(一の年度につき10日以内で教育委員会が定める日)		

② 館外への図書等の貸出対象者

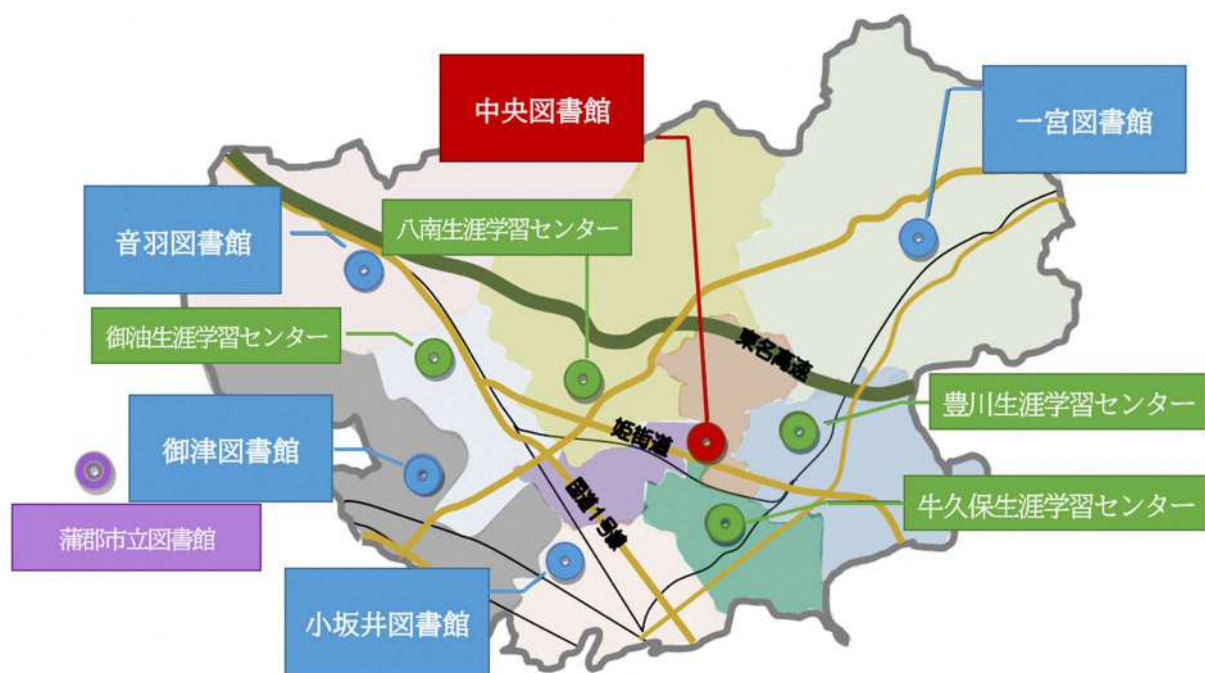
豊川市、豊橋市、蒲郡市、新城市、田原市、岡崎市、北設楽郡、額田郡のいずれかに居住、勤務又は在学している方

③ 図書館ネットワーク

市図書館は、中央図書館と4つの分館(音羽、御津、一宮、小坂井)、4つの生涯学習センター(豊川、牛久保、八南、御油)で図書館ネットワークを構築しています。

市内の各地域で格差のない図書館サービスの提供を行うため、各サービスポイントへの図書資料の配送作業を行っています。

図書資料等の予約の際に、中央図書館、分館、生涯学習センター又は蒲郡市立図書館のいずれかを受取館に指定することで、図書資料等を希望の施設で受け取ることができます。



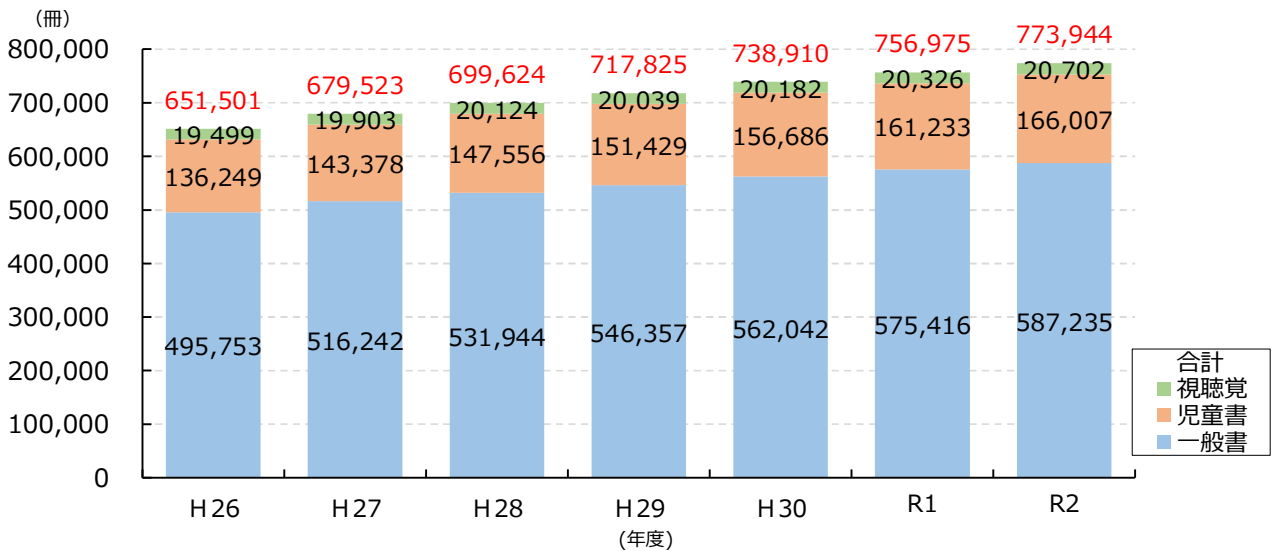
■ 図書館ネットワーク

3-2 図書館サービスの状況

(1) 蔵書の状況

① 資料種別蔵書数の推移

蔵書冊数は年々増加しており、平成 26 年度から令和 2 年度の 7 年間で、651,501 冊から、773,944 冊と約 1.2 倍に伸びています。令和 2 年度の蔵書数は、中央図書館と分館で、一般書 587,235 冊、児童書 166,007 冊、視聴覚資料 20,702 点の合計 773,944 冊（点）となっています。

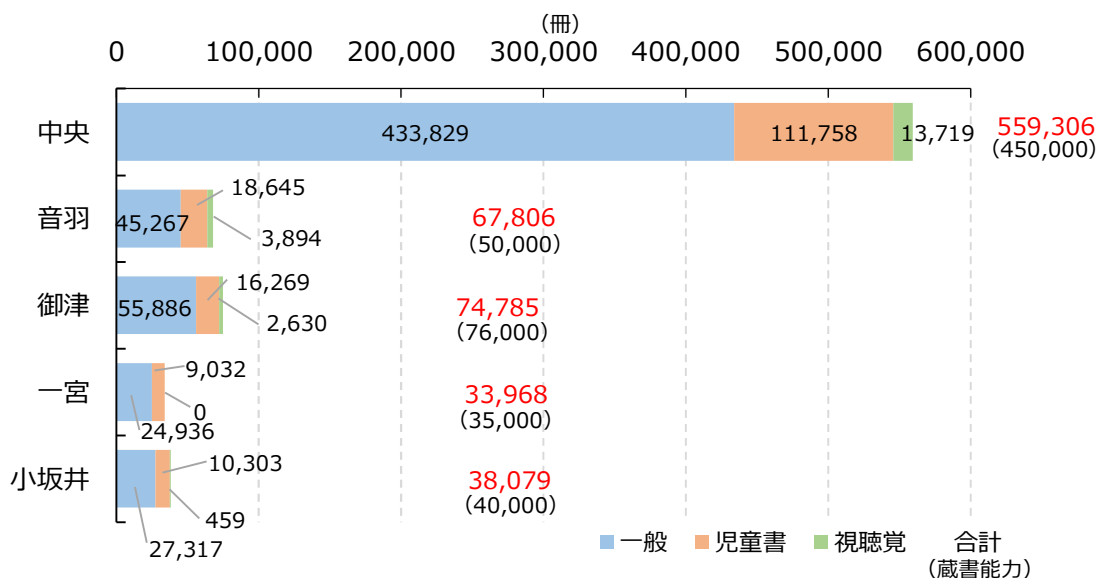


■資料種別蔵書数の推移（中央+分館）
資料：豊川市図書館概要（各年版）

② 場所別蔵書状況

令和 2 年度末の各館の蔵書状況をみると、蔵書能力に対し、中央図書館では約 10 万 9 千冊、音羽図書館では約 1 万 7 千冊が超過している状況です。

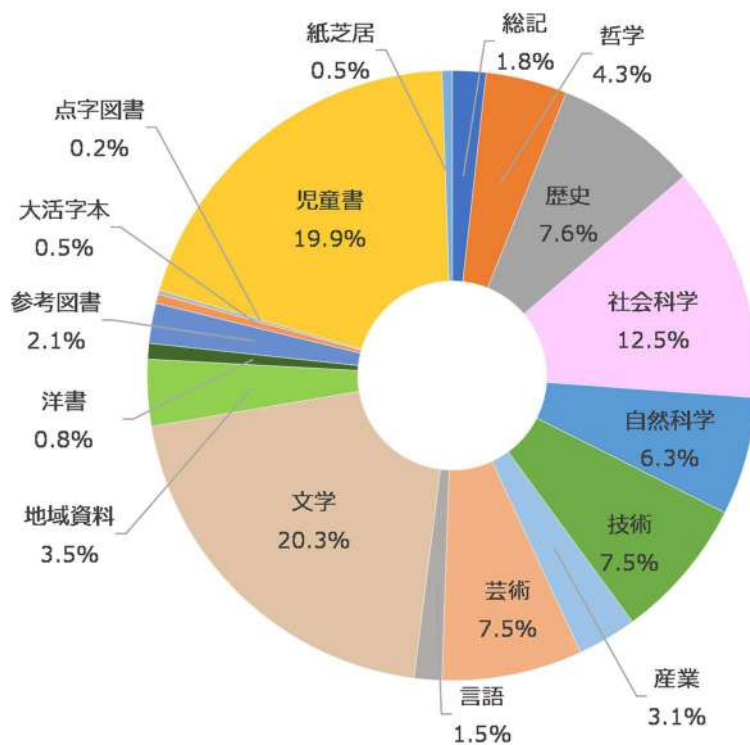
市図書館の蔵書で一定の基準に基づいて除籍された書籍については、有効活用を図るため、中央図書館エントランス（本のリサイクルコーナー）にて無償で提供しています。



■場所別蔵書状況（令和 2 年度実績）
資料：豊川市図書館概要（R3）

③ 中央図書館一般書・児童書構成比

中央図書館の一般書・児童書の構成比をみると、「文学」が 20.3%で最も多く、次いで、「児童書」が 19.9%、「社会科学」が 12.5%、となっています。



■ 中央図書館一般書・児童書構成比（令和2年度実績）（N = 545,587）
資料：豊川市図書館概要（R3）

(2) 利用の状況

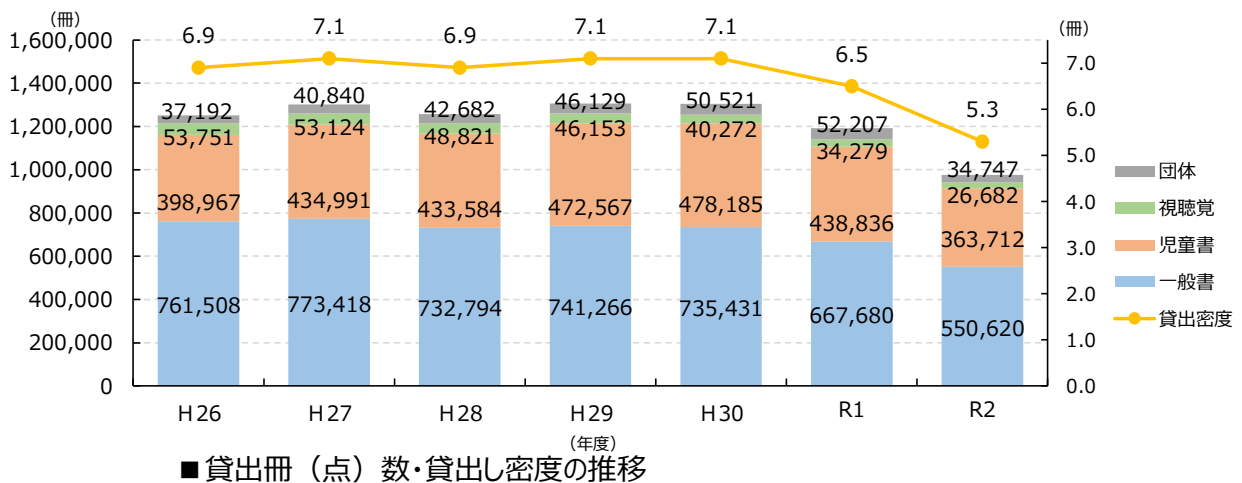
① 貸出冊（点）数・貸出密度の推移

全国的に図書の貸出利用の減少傾向が続く中、本市では毎年約 123 万冊の貸出があります。児童書の貸出数は平成 26 年度から平成 30 年度の 4 年間で 398,967 冊から 478,185 冊に増加していましたが、令和元年度以降は減少しています。

貸出密度（市民 1 人当たりの図書等貸出冊数：貸出冊数/年度末人口）は、図書館サービスの状況を測る指標の一つとされています。本市では、おおむね 7.0 冊で推移していましたが令和元年度では、6.5 冊となっています。貸出密度の全国平均は概ね 5.0 冊（日本の図書館 統計と名簿 2020）であるため、本市は全国平均の約 1.3 倍です。

直近の令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響のため、個人貸出冊（点）数、貸出密度ともに前年度から減少しています。

視聴覚資料の貸出し点数は、平成 26 年度以降減少しています。その理由として、インターネットやスマートフォンの普及が進んだことが考えられます。

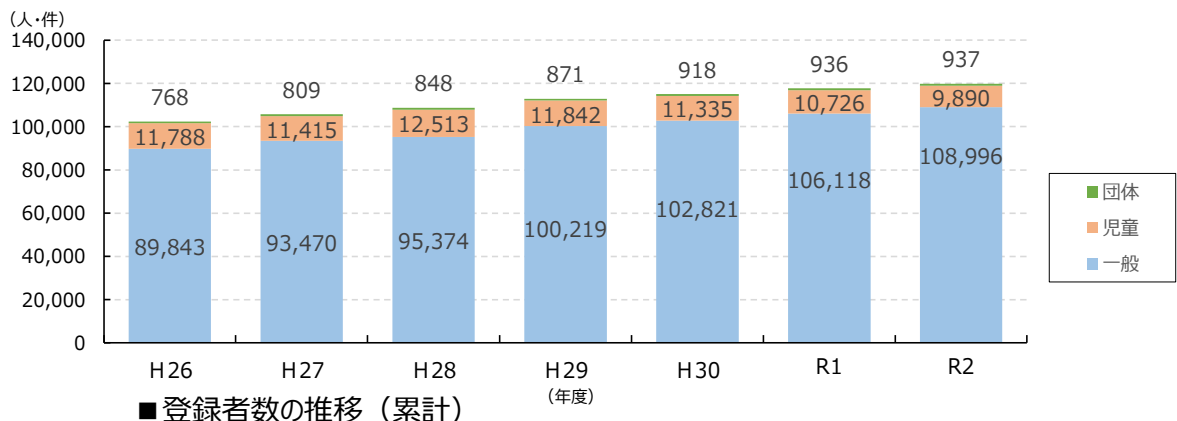


② 登録者数の推移

平成 26 年度から令和 2 年度の 6 年間で全体の登録数は、毎年 3,000 人前後で伸び続け、令和 2 年度では、119,823 人となっています。

一方で児童の登録者数は、平成 28 年度までは増加傾向でしたが、平成 29 年度以降は減少しています。児童の登録者の減少は、少子化が一因として考えられます。

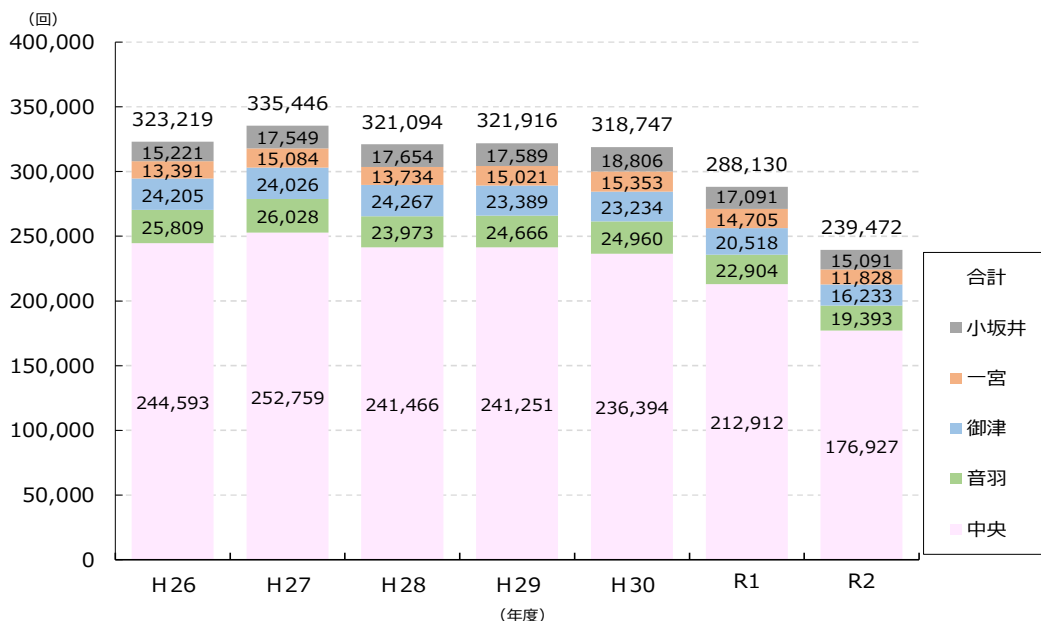
団体の登録数は、平成 26 年度から令和 2 年度の 6 年間で、169 件の増加となっています。



③ 利用者数の推移（1年間延べ利用回数）の推移

市図書館の利用者数（年間延べ利用回数）は、平成 26 年度 323,219 回から平成 27 年度 335,446 回にかけて増加しましたが、平成 27 年度から平成 28 年度 321,094 回には約 4.3%減少し、平成 28 年度から平成 30 年度 318,747 回にかけてはほぼ横ばいとなっています。特に中央図書館の利用者数（年間延べ利用回数）は、平成 27 年度の 252,759 回から平成 30 年度の 236,394 回で、約 6.5%減少しています。

直近の令和元年度 288,130 回、令和 2 年度 239,472 回は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための臨時休館などの影響により、各図書館の利用者は平成 30 年度以前と比較して大幅に減少しています。



■ 利用者数の推移（1年間の延べ利用回数）

資料：豊川市図書館概要（各年版）

④ 電子図書館の利用状況

病気やけが、障害などのため来館が困難な方にも読書に親しんでいただけるよう、平成 28 年 2 月から豊川市電子図書館のサービスを開始しています。

電子書籍の蔵書数については、当初の約 2,000 ライセンスから、蔵書を増やし令和 2 年度には 9,394 ライセンスに充実しています。

利用登録者は、学校団体の一括登録や 24 時間利用できる利便性から順調に増加しており、電子書籍の利用回数（貸出回数+閲覧回数）は大幅に伸びています。

■ 電子図書館の利用状況

項目	H27	H28	H29	H30	R1	R2
電子書籍数（ライセンス数）	1,917	3,132	4,064	4,679	5,216	9,394
利用登録者数 （各年度中の利用登録者数）	538	1,949	4,026 (2,077)	5,818 (1,792)	7,020 (1,975)	6,444 (1,884)
貸し出された電子書籍	401	804	1,034	1,321	1,753	1,854
電子書籍利用回数	3,513	7,825	8,976	10,793	12,753	19,549

※電子書籍数（お役立ち文庫 3,010 冊を除く）資料：豊川市図書館概要（各年版）

3-3 市民アンケートの調査結果

(1) 図書館・読書に関するアンケート（市民向け）の結果

市民の図書館の利用状況や今後のあり方に対する意向を把握し、前計画の評価と本計画の策定に反映するため、以下に示す市民アンケート調査を実施しました。調査は令和2年11月～12月に実施し、819件の回答が得られました。

項目	内容
1.調査名	図書館・読書に関するアンケート（市民向け）
2.調査目的	・市民の図書館の利用実態を把握し、図書館サービスについて啓発する。 ・主な事業の認知度等を把握し、前計画の評価に反映する。 ・本市の図書館サービスに対する要望等を把握し、本計画の策定に反映する。
3.調査対象	18歳以上の市民2,000名（無作為抽出）
4.調査方法	郵送配付・郵送回収
5.調査期間	令和2年11月27日～12月18日
6.回収数	有効819件（有効回収率40.1%）

① 回答者属性

○年齢構成は「70歳以上」が25.0%と最も多く、「60歳代」が20.1%、「40歳代」が17.3%、「50歳代」が16.6%、「30歳代」が10.5%、「18～29歳」が10.1%、「無回答」が0.2%となっています。

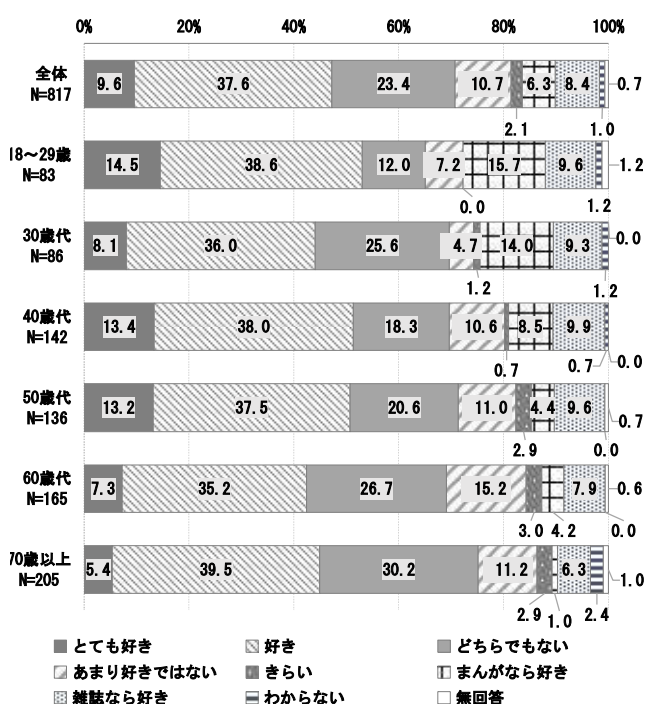
○職業は「会社員・公務員」が32.1%と最も多く、次いで「無職」が19.5%、「パート・アルバイト」が18.9%、「専業主婦・主夫」15.1%となっています。

② あなたの読書活動について

○本を読むことが好きかたずねたところ「とても好き」と「好き」を合わせた「読書が好きな傾向」の割合は47.2%となっています。（図1）

○1か月の読書量は、「ほとんど読まない」が45.2%と最も多く、「まんが、雑誌なら読む」は9.8%となっています。

○普段の読書については、33.4%が週に1回以上、本を読んでいると回答しています。一方で「ほとんど読まない」が34.8%となっています。



③ 図書館の利用について

○市図書館を過去1年間に利用したことがある人は、全体の39.2%となっています。年齢別にみると利用したことがある人は30歳代にかけて増加し、以降年齢が上がるにつれて減少しています。(図2)

○図書館利用者の利用目的は、「本の貸出、返却」の割合が最も高く72.9%、次いで、「本を読む」が18.7%となっています。(図3)

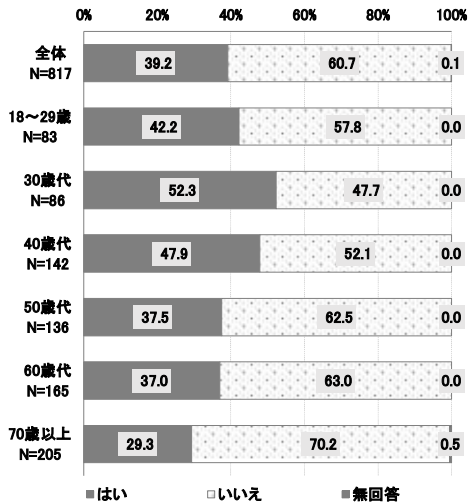


図2：過去1年間の図書館利用×年齢 (N=819)

図1：年齢×本を読むことが好きですか

(N=819)

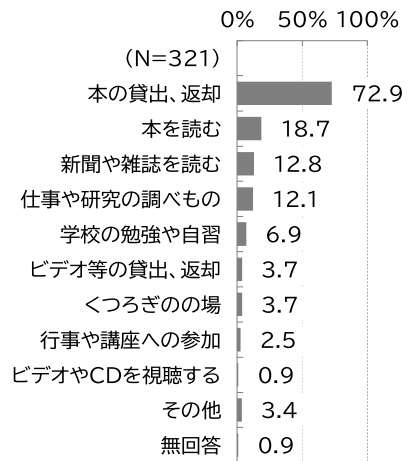


図3：図書館などの利用目的 (N=321)

○市図書館を利用したことがあると回答した人のうち、利用頻度をたずねたところ「月に2・3回位」が29.3%と最も多く、次いで「年に5・6回位」が23.4%でした。利用者の半数以上が月に1回以上市図書館を利用しています。(図4)

○図書館の滞在時間（市図書館などを過去1年間に利用したことがある人）については、「30分-1時間以内」が50.8%と最も多く、利用者の約70%が1時間以内の利用となっています。(図5)

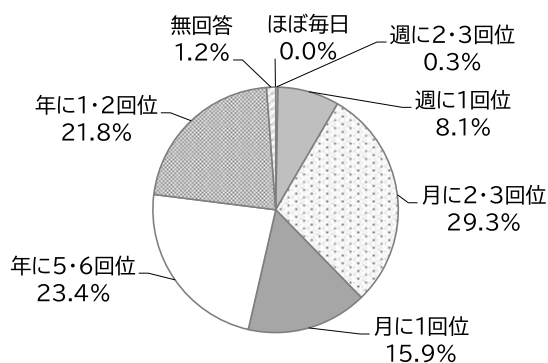


図4：市図書館などの利用頻度 (N=321)

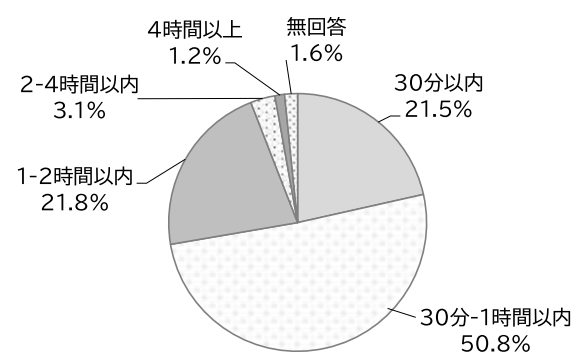


図5：市図書館の滞在時間 (N=321)

○市図書館への来館方法については、「自家用車」が79.8%と多く、次いで「自転車」が11.5%、「徒歩」が6.5%となっており、自由記述では、駐車場に関し、「駐車場の横幅が狭い」、「いつも満車である。」「駐車スペースに余裕があればと思う」などの意見が散見されます。

○資料の貸出点数及び期間については、貸出点数で92.8%、貸出期間で83.2%が「現

状のままで良い」と回答しています。

- 利用者の満足度（「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた「満足している傾向」）は、市図書館全体で 90.0%となっています。（図 6）
- 「職員の対応」の 95.1%を筆頭にいずれの項目も 70%を超える満足度となっていますが、そのうち「読みたい・借りたい本の見つけやすさ」が 74.1%、「図書館資料の検索のしやすさ（パソコンでの資料検索）」が 76.9%と、満足度が比較的低くなっています。
- 開館日・開館時間については、82.0%が「満足している傾向」となっています。

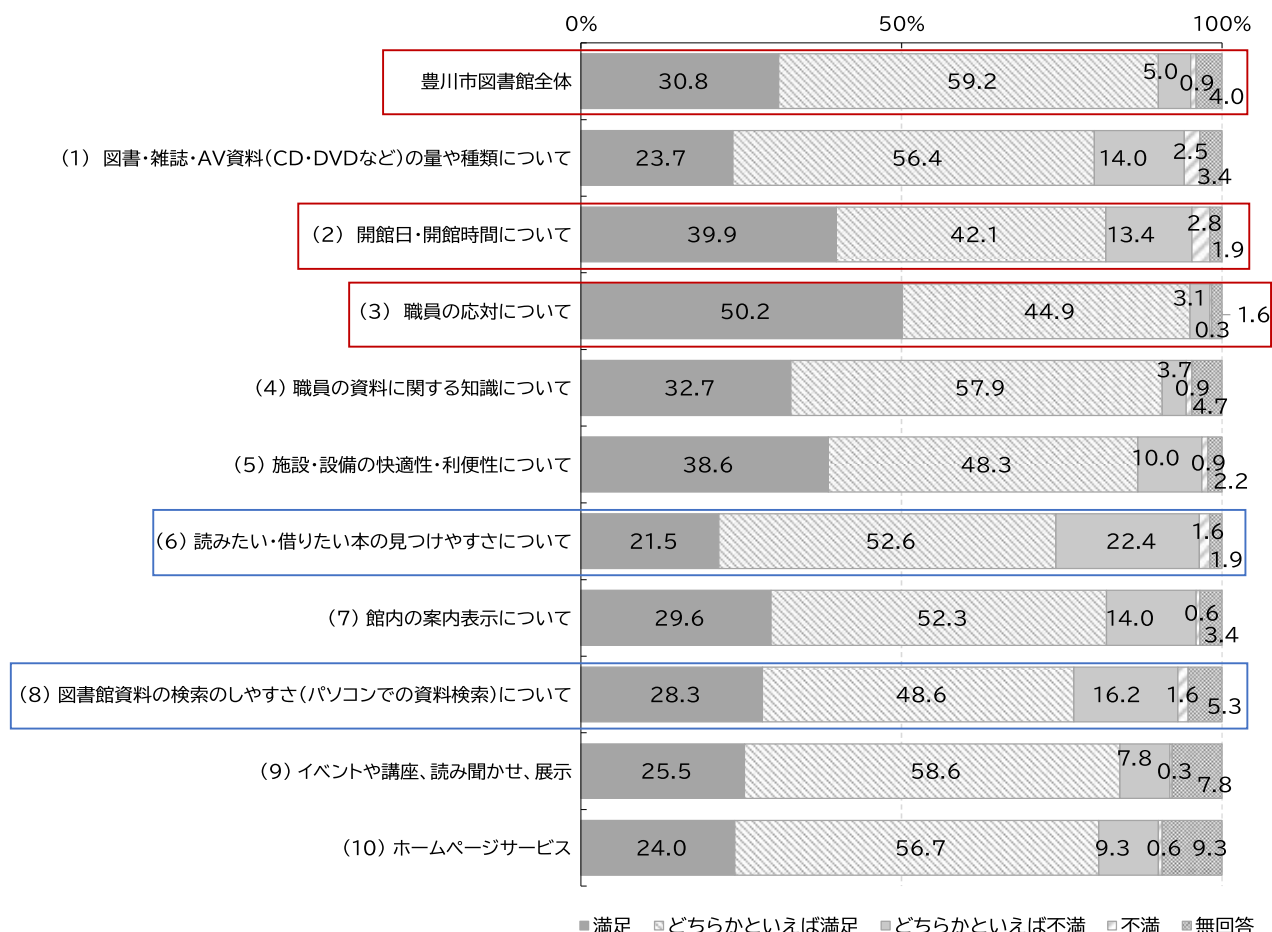


図 6: ■利用者の満足度 (N=819)

- 市図書館を利用しない理由（1年以内に市図書館の利用がない人）については、「本は買って読むから」が 37.1%と最も多く、次いで「本を読まないから」が 35.9%となっています。（図 7）

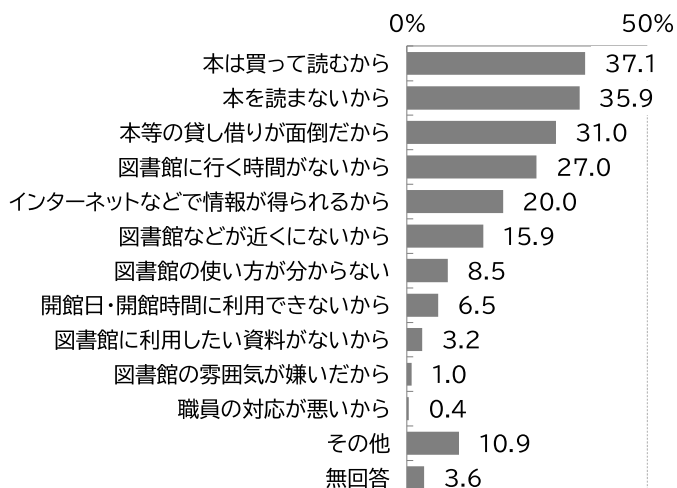


図 7: ■市図書館を利用しない理由 (N=496)

④ 中央図書館に望むこと

- 中央図書館に望むことでは、「余暇を楽しむことができる、目的が無くても気軽に立ち寄れる」が 49.2%と最も多く、次いで「仕事に役立つ情報を調べる」が 37.0%、「落ち着いて資料が読める」が 36.8%となっています。(図 8)

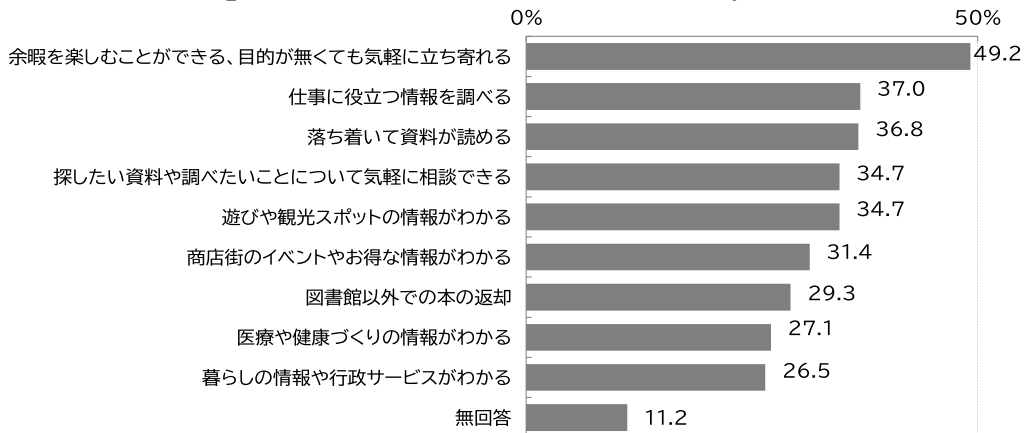


図 8: ■中央図書館に望むこと (上位 10 項目抜粋) (N = 819)

- 開館時間・閉館時間については「現在のままでよい」が 7 割を超え最も多くなっています。(図 9)

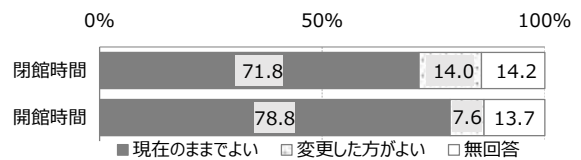


図 9: ■中央図書館の開館時間・閉館時間 (N = 819)

⑤ 分館 (音羽・御津・一宮・小坂井) に望むこと

- 「余暇を楽しむことができる、目的が無くても気軽に立ち寄れる」が 32.8%と最も多く、次いで「仕事に役立つ情報を調べる」が 32.5%、「落ち着いて資料が読める」が 28.8%となっています。(図 10)
- 中央図書館と比較して「読み聞かせや紙芝居など、子どもが本に触れ合う機会に参加する」、「親子で声を出して本が読める」など、子どもの読書についての要望が上位に入っています。

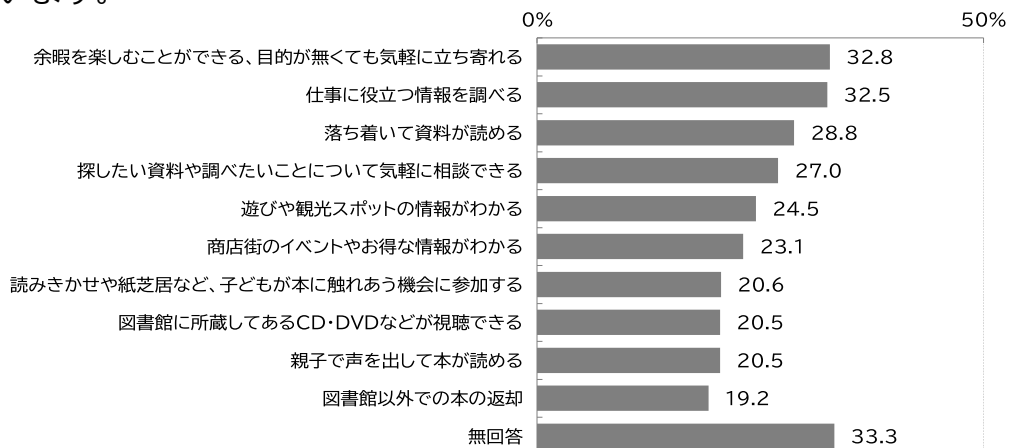


図 10: ■分館に望むこと (上位 10 項目抜粋) (N = 819)

- 開館時間・閉館時間については「現在のままで良い」が約 6 割で最も多くなっています。(図 11)

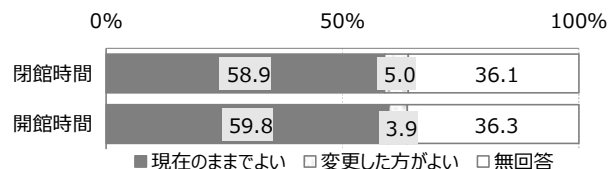


図 11: ■分館の開館時間・閉館時間について (N = 819)

⑥ 市図書館サービスについて

- 市図書館が行うサービスの認知度について、「知っているが利用したことがある」と「知っているが利用したことがない」を合わせた「知っている」は、「(1) 図書等の閲覧・貸出」が 80.8%と最も多く、次いで「(3) 視聴覚資料の視聴・貸出」が 55.8%、「(4) 貸出予約」が 54.9%となっています。(図 12)
- 市図書館が行っている情報発信の認知度については、「図書館通信(広報とよかわ内)」が 49.9%と最も多く、次いで「市図書館ホームページ」が 34.3%、「図書館だより」が 17.5%となっています。

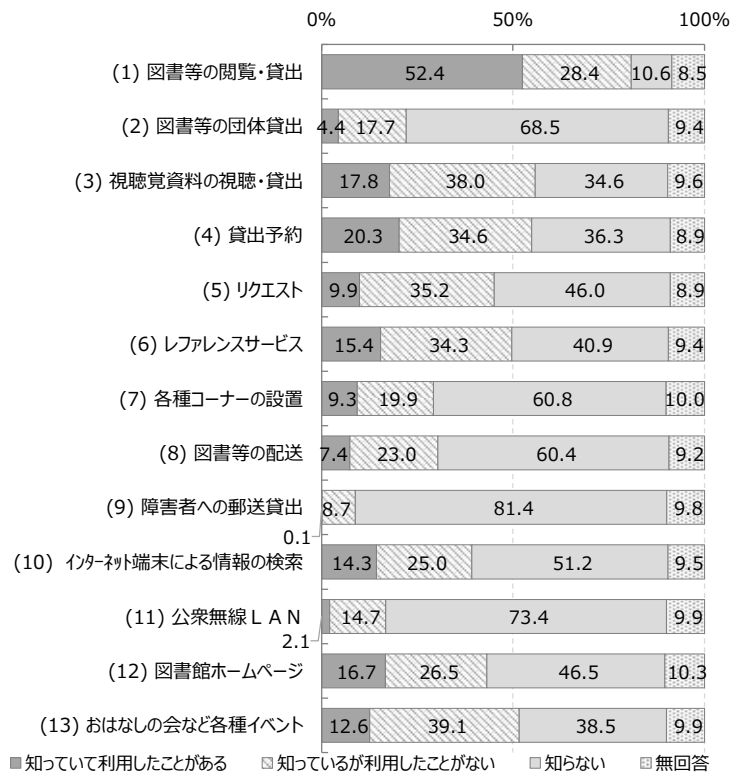


図 12: ■市図書館サービスの認知度 (N=819)

⑦ 電子書籍の利用について

- 電子書籍を利用したことがある人は、全体で 18.1%となっています。年齢別に見ると、18~29 歳では「ある」が 42.2%と最も多くなっているのに対し、60 歳代、70 歳以上では、10%を下回っています。(図 13)
- 子どもの電子書籍の利用に対する印象については「分からない」が 50.7%と最も多く、次いで「好ましい」が 26.0%、「好ましくない」が 14.8%となっています。年齢別では、18~29 歳で「好ましい」が 48.2%と最も多くなっています。(図 14)

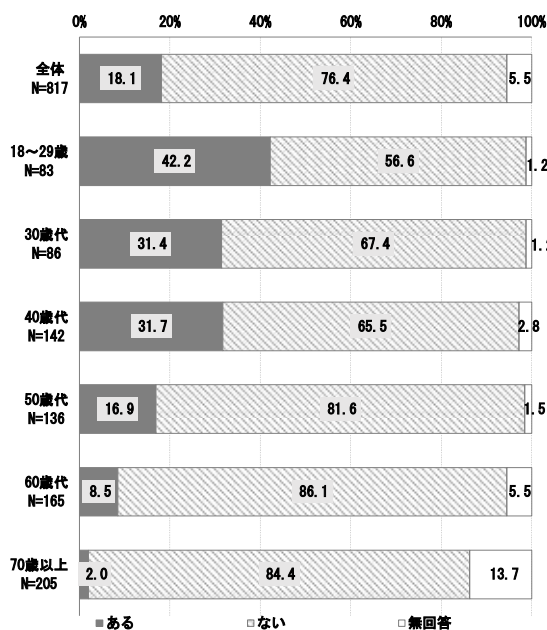


図 13: ■年齢×電子書籍利用経験 (N=819)

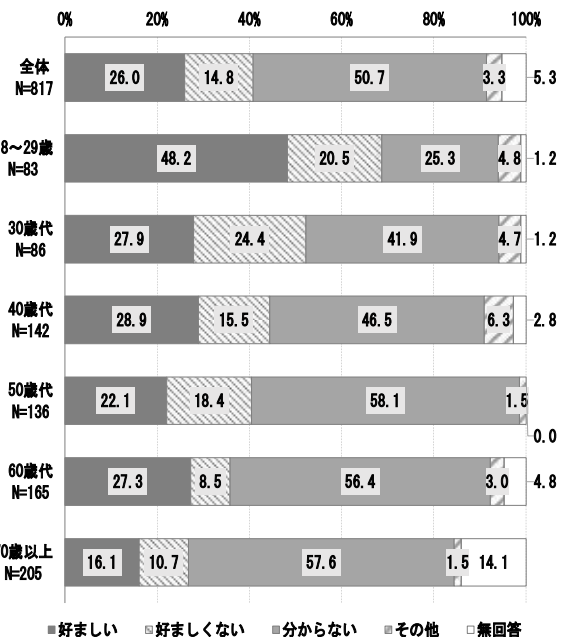


図 14: ■年齢×子供の電子書籍の利用に対する印象 (N=819)

3-4 前計画における取組状況

前計画では、「人と地域と学びのために ～知と情報の空間をめざして～」を基本理念に設定し、以下の3つの基本目標を掲げました。

基本目標1 人と地域づくりを支える空間

基本目標2 人の学びと暮らしに役立つ空間

基本目標3 人の交流と文化を創る空間

(1) 基本目標別の実施状況

基本目標1 人と地域づくりを支える空間

前計画では、基本目標1について、乳幼児から高齢者まですべての世代や障害者、外国人など、市民の誰もが、いつでも、どの地域でも、等しく図書館サービスを受けられるよう、市民や学校、地域と連携しながら、きめ細やかな魅力ある図書館サービスの充実を図り、より身近でより便利で自由な図書館環境の構築を目指し、図書館サービスのうちで最も重要視されるサービス図書資料の閲覧貸出しの充実を示す指標として、市民の図書資料の選択を広げるといった観点から蔵書数の充実及び貸出冊（点）数の目標値を設定しましたが、その結果は以下のとおりでした。

【中央館及び分館の蔵書冊（点）数】

単位：冊(点)

	現状値 (H22年度末)	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	目標値 (R3年度末)
合計	563,116	651,501	679,523	699,624	717,825	738,910	756,975	773,944	850,000
中央	410,960	466,572	482,600	499,055	515,521	531,362	546,635	559,306	617,000
音羽	52,715	60,163	63,029	64,755	66,045	67,406	68,631	67,806	79,000
御津	63,114	68,797	70,480	71,270	73,459	74,636	74,435	74,785	94,000
一宮	18,013	27,531	31,607	31,988	29,836	31,571	32,072	33,968	30,000
小坂井	18,314	28,438	31,807	32,556	32,964	33,935	35,202	35,079	30,000

※蔵書冊数は、年々増加しているものの、一宮図書館及び小坂井図書館以外の図書館では、令和3年度末の目標値には届かない見込みとなっています。目標を達成できない理由の一つとして、全館の開架及び閉架書庫を合わせた蔵書能力である651,000冊を大きく超えた目標850,000冊に設定していたことです。また、現在の蔵書冊数は、773,944冊と既に蔵書能力を超えている状況です。従って、本計画期間においては、実際の書庫の蔵書可能な残容量を踏まえて、書籍等の購入、適切な除籍などの管理を行う必要があります。

【貸出冊（点）数】

単位：冊(点)

	現状値 (H22年度末)	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	目標値 (R3年度末)
合計	1,195,079	1,251,418	1,302,373	1,257,881	1,306,115	1,304,409	1,193,002	975,761	1,793,000
中央	1,000,762	986,630	1,020,185	980,005	1,024,055	1,012,663	925,449	752,686	1,501,000
音羽	91,404	81,512	85,608	81,355	85,300	85,898	77,787	66,474	137,000
御津	73,885	81,924	80,966	81,633	80,872	80,576	72,787	56,264	111,000
一宮	11,047	45,614	51,502	49,818	52,103	55,921	53,371	43,697	17,000
小坂井	17,981	49,908	57,209	58,470	57,171	61,262	56,415	49,916	27,000
サービスポイント		5,830	6,903	6,600	6,614	8,089	7,193	6,724	—
(電子図書館貸出)		—	960	2,420	2,823	3,613	3,941	5,972	—
(" 閲覧)		—	2,553	5,405	6,153	7,180	8,812	13,577	—
電子図書館計		—	3,513	7,825	8,976	10,793	12,753	19,549	—

※貸出冊（点）数は、平成30年度までは増加の傾向にあったものの、近年、人口の増加が頭打ちとなり、また、利用者が館外貸出型の利用から館内滞在型へと移行しつつあり、さらに令和元年度以降は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う臨時休館や外出の自粛などの影響により、貸出冊（点）数は減少傾向へと転じており、目標値に対し大幅に少ないレベルです。本計画においては、これらを考慮した目標の見直しを行う必要があります。

基本目標2 人の学びと暮らしに役立つ空間

前計画では、基本目標2について、市民が普段必要としている学びと暮らしに役立つ身近な情報として、医療や健康に関する情報、法律に関する情報、就業に関する情報、職に関する情報など、さまざまな生活課題に対応する情報を提供するとともに、市民が抱えている地域の課題の解決に役立つ情報を提供する図書館を目指し、市民にどれだけの情報を提供できたかを図る指標として、情報提供サービスの利用を拡大していくという観点から、利用者の公衆無線LAN、インターネット閲覧端末及びレファレンスの利用件数の目標値を設定しましたが、その結果は以下のとおりでした。

【公衆無線LAN、インターネット閲覧端末利用件数】

単位：件

現状値 (H22年度末)	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	目標値 (R3年度末)
41,857								44,000

※公衆無線LANとインターネット閲覧端末の利用件数については、窓口での手続きをしなくても自由に使えるように整備したため、年度毎の利用件数のデータが存在しておらず、目標の達成状況については、判断ができませんでした。直近の5年では公衆無線LANがつかないという相談はなくなり、多くの方に利用されています。

【レファレンス・読書相談の利用件数】

単位：件

現状値 (H22年度末)	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	目標値 (R3年度末)
702	3,375	3,244	4,778	4,707	4,544	3,249	2,625	740

※レファレンス・読書相談の利用件数については、年度毎にバラツキはありますが、目標を大きく上回っています。

基本目標 3 人の交流と文化を創る空間

前計画では、基本目標3について、市民の生涯学習の機会や活動、交流の場を提供するとともに、人と本をとおし、誰もが気軽に立ち寄れる、居心地の良い市民の憩いの場として、文化の創造に役立つ空間を提供し、安全で安心できる市民のオアシスとなるような図書館を目指し、市図書館がどれだけ市民の利用したい空間であるかを図る指標として、市民の市図書館の利用頻度を向上させるという観点から市図書館への来館者数及びイベントへの参加者数の目標値を設定しましたが、その結果は以下のとおりでした。

【来館者数】

単位：人

	現状値 (H22年度末)	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	目標値 (R3年度末)
合計	576,738	572,419	637,974	648,322	660,487	678,341	619,269	414,510	606,000
中央	448,389	397,820	457,128	468,202	470,514	486,819	444,468	290,932	—
音羽	67,298	56,557	57,201	53,543	54,130	54,024	52,642	34,154	—
御津	61,051	54,001	52,978	49,629	50,253	50,530	44,857	27,406	—
一宮	—	38,655	40,818	42,541	40,292	41,080	36,756	26,510	—
小坂井	—	25,386	29,849	34,407	45,298	45,888	40,546	35,508	—

※来館者数については、分館を含む市図書館全体の総数で目標設定がされていました。平成30年度までは順調に来館者数が増加していましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による臨時休館や外出自粛の影響で、令和元年度以降は減少に転じています。

【イベント参加者数】

単位：人

	現状値 (H22年度末)	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	目標値 (R3年度末)
合計	7,434	8,243	8,452	8,202	8,939	8,681	8,002	2,588	7,500
中央	6,463	6,744	7,114	7,035	7,538	7,057	5,865	1,633	—
音羽	218	222	232	251	301	359	363	253	—
御津	753	843	637	451	580	755	746	220	—
一宮	—	215	179	157	299	234	752	214	—
小坂井	—	219	290	308	221	276	276	268	—

※イベント参加者数については、一宮図書館と小坂井図書館の分館化に伴う増加もあり、令和元年度までは、目標は達成したものの、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のためのイベント中止や外出自粛の影響で、令和2年度は大きく減少しています。

3-5 計画策定に向けた課題

図書資料の充実

図書館として最も重要視される資料蔵書の充実という点では、本市でも厳しい財政状況が続く中、豊川市総合計画実施計画に基づき、計画的に資料蔵書の収集、提供に努める必要があります。

利用しやすい図書館

市民アンケートの結果、市図書館全体の満足度は90.0%と高くなっています。満足度の高い項目は充実を図る一方で、他の項目と比較して満足度の低かった、資料の見つけやすさや、検索のしやすさについては、施設・設備面の整備充実と図書館職員のレファレンススキルの向上の2つのアプローチで改善を行っていく必要があります。

図書館利用の促進

市図書館の利用目的は「本の貸出、返却」が半数以上を占めていますが、貸出冊数は減少傾向が続いており、利用者ニーズを取り入れた資料収集など、新しい図書館の活用を提案・創造していくことが必要です。

市民アンケートによると「仕事に役立つ情報を調べる」ことを望む回答が多くありました。ビジネス支援サービスをはじめ、潜在利用者層のニーズの把握し、新たな利用者へのアプローチを行っていく必要があります。

滞在型利用者への対応（居場所としての図書館）

市民アンケートによると、市図書館へ望むこととして「余暇を楽しむことができる、目的がなくても気軽に立ち寄ることができる」が最も高くなっていました。この要望を具体化し誰もが図書資料を利用しやすく、利用しやすい空間をつくることで市民のサードプレイスとなることが求められます。

現代の図書館は、子どもから高齢者まで、学習や調査研究の場としての利用はもちろんのこと、それぞれの余暇時間にあわせて、快適に滞在し、時には他の市民とのコミュニケーションをとる場所として利用も多くなってきています。

滞在型の利用者への対応として、飲食・休憩スペースの充実や電源の拡充など、利用者が快適に過ごせる空間づくりやサービスの提供を検討する必要があります。

利用者に応じた、図書館サービスの提案・提供

高齢化の進行に伴い、来館困難者の増加が見込まれます。また、市域が広く子どもが自力で中央図書館へ足を運ぶことが困難な地域もあるため分館や学校図書館との連携が必要です。

分館では「読み聞かせや紙芝居といった子どもが本に触れ合う機会を設けること」「親子で声を出して本が読める」ことを望む回答が高くなっています。生活に身近な分館の特徴を生かした取組を行っていく必要があります。

小中高と校種が上がるとともに市図書館の利用頻度は減少していることから、発達段階に合った取組を進めることで、未来の利用者を育てていくことが必要です。

図書館サービス、分館ごとの特長の PR

サービスの充実に取り組んできましたが、市民アンケートによると既に実施されているサービスも、利用者にその存在が周知されていないものもみられます。今後も、利用者の利便性の更なる向上に取り組むとともに、新規サービスはもとより、既存サービスの定期的な周知活動、分館ごとの特長等についても PR を強化し、サービス利用の拡大、未利用者の開拓を図る必要があります。

安全で安心して利用できる図書環境の整備

市民アンケートによると、中央図書館、分館ともに「落ち着いて資料が読める」ことを要望する回答が多くありました。施設の老朽化への対応や設備の改修のほか、子どもから高齢者、障害のある人等、一人ひとりのニーズに合った、利用しやすく安心してくつろげる居場所としての環境の充実が求められています。

また、近年激甚化している大雨や地震といった災害発生時に限らず、感染症拡大等の多様化する脅威の下でも、市民の安全確保を最優先に、市図書館運営を継続できるよう対応が求められます。

市民が抱える課題の解決の支援

市図書館は、地域情報拠点施設としての役割を果たす必要があります。そのためには、今までの「広報とよかわ」内の「図書館通信」での周知に加え、地域のコミュニティ放送や地元新聞社などのローカルメディアとの連携も課題の一つです。さらに、市図書館から提供した情報をどの程度市民が活用しているのかを検証して改善につなげることも、今後の大きな課題となります。

市図書館職員は市民が抱える課題を把握し、レファレンスサービス等を通して市民ニーズに合った質の高い図書・資料を提供することが求められています。さらに、ニーズに応じた講座の開催、関係機関との連携など、課題解決を支援する仕組みづくりが必要です。

アフターコロナを見据えた図書館サービス

前計画末期の令和 2 年 3 月～令和 2 年 5 月までの間、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、政府の緊急事態宣言の発出により、臨時休館となりました。以降も感染拡大防止策として、短時間利用、ソーシャルディスタンス確保のための利用制限、イベントの中止や参加人数の制限を行ったため、前計画に掲げた目標に達しない項目もありました。

市図書館への来館が制限されるなか、電子図書館の利用を促進することで、利用者に図書館と電子書籍という図書館利用の複数の選択肢を用意することができました。アフターコロナを見据えて、電子図書館の導入で得た様々な資源を活用しつつ、市図書館と市民のつながり方を模索し図書館運営を行っていく必要があります。

計画を進めていくための効果的な成果指標の設定

前計画では、9つの成果指標を設定しています。一方で本市の総合計画で指標となっている貸出密度（市民 1 人当たりの図書等貸出冊数：貸出冊数/10月1日現在推計人口）は、前計画の成果指標に含まれていません。「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」に加え、電子図書館の導入や分館体制の変化など、本市の状況を踏まえた成果指標の設定が必要です。

第4章 図書館基本計画の基本的な考え方と目標

4-1 基本理念

(1) 基本理念

図書館利用者の図書館の認識は、これまでの「本を無料で貸し出す場所」、「勉強をするための空間」、「趣味や娯楽のための施設」といった位置づけから、市民ニーズの多様化や専門化などにより、資料や情報に対する要望・要求などが変化し、豊かな生活を送るため「自分に合う本を探し、生活に豊かさや潤いを得る場所」、「市民の自主的な学習を支援する施設」、「地域情報の収集・発信の拠点」、「地域文化活動やボランティア活動の支援拠点」とも位置づけられ、「市民の生活を支援する図書館」、「地域や住民に役立つ図書館」としてますます重要性が増しています。

こうした状況を踏まえ、本計画においては、市図書館のあり方や方向性を示して、市民や地域の課題解決に向けた支援や市民の暮らしの充実、にぎわいのある地域のハブとしての役割など、時代の変化による「新しい生活様式」にあった図書館サービスの充実を推進するものです。

図書に初めて接する幼児から高齢者、障害者、外国人市民など、誰もが身近に感じて気軽に利用でき、人が集まり、わかりやすく、利用しやすい、また、学びや情報の収集・発信などにより利用者の期待に応えられる魅力ある図書館を目指します。

このため、本計画では、次のように基本理念を定めます。

基本理念

誰もが気軽に集い、学べる図書館

また、この基本理念を実現するため、本計画では、市図書館を取り巻く社会情勢及び市図書館の現状、市民アンケート調査の結果等を踏まえ、3つの基本目標を掲げ、市図書館の管理運営に関する基本方針のもと、基本目標ごとに目標値を定め、各種施策に取り組んでまいります。

基本目標 1 利用しやすい図書館

基本目標 2 人が集まる図書館

基本目標 3 ためになる図書館

4-2 基本目標

本計画、市図書館を取り巻く社会動向及びアンケート等の結果を踏まえ、以下の基本目標を掲げます。

基本目標 1 利用しやすい図書館

- 限られた予算の中で市民ニーズに合わせた蔵書資料の充実を図ります。
- 分かりやすく見やすい書架づくりを行うなど「資料の見つけやすさ」を向上させ、利用者の利便性を向上させます。
- 幼児や児童、青少年、成人、高齢者、障害者、外国人市民などに応じたサービスを充実します。
- 気軽に入りやすい市民の憩いの場として、市図書館の滞在性を高め、くつろげる空間を確保します。
- 中央図書館を中心とした、身近な図書館体制をさらに推進します。
- 電子図書館の充実を図り、多様な市民の利用を促進します。
- 多様な利用者にきめ細かく対応し、誰もが「利用しやすい」図書館を目指します。



基本目標 2 人が集まる図書館

- 「本を借りる場所」に加え「余暇を楽しむ場所」としての充実を目指し、人が集まり、本を通じて人と人がつながる場の創出に向けて、本に関連するイベントや交流の場と機会の提供を行います。
- 未来の図書館利用者である、子ども達に向けて読書の魅力や図書館の良さ伝える活動を進めます。
- アフターコロナを見据えて併設の施設を含め施設全体で新しい活用方法を検討し、「人が集まる」図書館を目指します。



基本目標 3 ためになる図書館

- 知の拠点として地域の情報を収集し、市民ニーズに応えるよう取組を進めます。
- レファレンスサービスを充実させ、市民と資料・情報を結びつけ、市民の課題解決を支援します。
- ホームページやSNSなどの活用による情報発信を充実します。
- ビジネスやキャリア支援など、役立つ情報の提供を行います。
- 市役所各部署や関連団体、学校などと連携した取組を行います。
- 長期的な視点で地域情報を収集、保存、活用していくとともに、多様な主体との連携により、「ためになる」図書館を目指します。



4-3 市図書館の管理運営に関する基本方針

今後の市図書館の管理運営について、市図書館の現況と市民アンケートの結果から、以下のとおりとします。

(1) 図書館の運営形態

利用時間及び休館日

利用者の満足度が、「満足」、「どちらかといえば満足」を合わせ 82%と高いことから、当面は現状の利用時間及び休館日を維持します。

市図書館の構成

分館やサービスポイントの構成と配置、配送共に当面は現状を維持します。

中央館窓口業務

当面は現状の一部業務委託を維持します。

分館運営

今後、再任用職員等の確保が困難となることから指定管理者制度等を含め検討します。

軽食コーナー

令和4年度の空調・外壁等の工事が終わるタイミングでの公募を検討します。

自動販売機

飲料水の自販機の設置を継続します。その他の自販機はごみの懸念から設置を見送ります。軽食コーナーの経営者と設置に関する協議が必要です。

(2) 利用登録

館外貸出の対象者

当面は現状を維持します。(有効期限3年間)
市外からの交流人口の増加を図るため、対象地域の範囲を拡大することを検討します。

電子図書館

当面は現状を維持しつつ、読書バリアフリー法への対応と合わせ検討します。

(3) 市民・地域との連携

ボランティア登録

当面は現状を維持します。
市民やボランティア団体と連携・協力してイベントの開催、本の修繕を行うため、図書館ボランティア登録制度を継続します。
また、多様なボランティアの活用・連携について、検討します。

(4) 蔵書管理

選書方針

総合計画実施計画などに掲載している、選書方針を基本としたうえで、特に ICT や SDGs を始め新しい話題の分野で市民の学習や経済活動の役に立つ本を積極的に収集するほか、ティーンズ向けの進路の参考となる本や、マンガ・ラノベコーナーの選書基準などを掲載します。

除籍方針

開架及び閉架書庫の空き容量確保のため、地域資料等の貴重本を除き、購入後7年以上を経過し、利用回数の減少した本は積極的にリサイクルに回します。

(5) 安全・安心

震災対策

東海・東南海地震の発生に備え、図書の落下防止措置を早急に行います。

防犯

防犯カメラの死角を減らすため、カメラの増設や設置方法等を検討します。

感染症対策

行列対策、手指消毒、定員制限、飛沫防止パネル、書籍消毒器などを整備します。

個人情報の保護

市図書館で保有する個人情報は、利用目的を達成するために必要な範囲に限定するとともに適正な取り扱いを徹底し、プライバシーの保護を図ります。

(6) 関連法律への対応

障害者差別解消法

合理的配慮への対応を徹底し、事前対応可能な合理的配慮への積極的な対応を行います。

子ども読書活動推進法

別途、豊川市子ども読書活動推進計画実施計画をローリングにて進捗管理します。

読書バリアフリー法

現行の取組を継続します。今後本市の福祉部門と調整し検討を行います。

4-4 計画の体系

施策体系図を以下に示します。

基本理念	基本目標	施策の方向
誰もが気軽に集い、 学べる図書館	基本目標 1 利用しやすい 図書館	(1) 蔵書の充実
		(2) 多様な利用者に向けたサービス
		(3) 貸出型だけでなく館内滞在型も
		(4) ICT を活用したサービス
		(5) 環境整備
	基本目標 2 人が集まる 図書館	(1) 図書館に親しみを持つイベント等の実施
		(2) 子ども読書活動の支援
	基本目標 3 ためになる 図書館	(1) 課題解決支援の充実
		(2) 情報発信の充実
		(3) 他部署との連携
		(4) 地域資料の収集・活用・継承



市図書館の管理運営に関する基本方針

4-5 成果指標

基本目標ごとに成果指標を設定し、計画期間前の実績値を基準として、計画期間の最終段階における目標値を定めます。

	成果指標	現状値:令和2年度 (参考:平成30年度)	目標値 令和12年度
基本目標1 利用しやすい 図書館	・市民アンケートで「読書が好き」の割合	47.2%	50.0%
	・市民1人当たりの図書等貸出冊数（貸出冊数/10月1日現在推計人口）	5.0冊 (6.8冊)	7.1冊
	・電子図書利用回数（貸出回数+閲覧回数）	19,549冊	32,000冊

基本目標2 人が集まる 図書館	・来館者数	414,510人 (678,341人)	700,000人
	・イベント参加者数	2,588人 (8,681人)	9,000人

基本目標3 ためになる 図書館	・レファレンスの利用件数（年間）	2,625件 (4,544件)	5,000件
	・コラボ展示開催数	28回 (58回)	70回

※令和2年度数値が新型コロナウイルス感染症の影響で例年と比較し、極端に少ない数値となっている場合は、影響のない平成30年度の実績値を（ ）書きで併記しています。

第5章 計画推進のための取り組み

基本目標 1 利用しやすい図書館

図書館は、多くの人々が利用する身近な公共施設であるとともに、生涯学習のための重要な施設です。利用者にとって、魅力ある図書館であるためには、時代の変化に対応して新鮮な蔵書構成を維持する必要があり、明確な資料収集方針に基づいた適正かつ効果的な選定作業が必要不可欠です。また、市民の知的創造を支えるため、紙の資料だけでなく電子資料も含めた資料の充実を図ります。

図書館は情報と知識へのアクセスを保証することにより、SDGs の理念「誰一人取り残さない」の達成に向けて貢献することのできる施設です。今後、SDGs の理念を踏まえて非来館型のサービスである電子図書館をはじめ具体的な施策を行っていきます。

人口 18 万人を有する市図書館として、今後も中央図書館を中心とした身近な図書館体制をさらに推進し、多様な利用者のニーズに対応し、誰もが「利用しやすい」図書館を目指します。

施策の方向

- (1) 蔵書の充実
- (2) 多様な利用者に向けたサービス
- (3) 貸出型だけでなく館内滞在型も
- (4) ICT を活用したサービス
- (5) 環境整備

施策の方向(1) 蔵書の充実

蔵書の充実は図書館サービス根幹をなすものです。限られた予算の中で市民ニーズに合わせた蔵書資料の充実を図ります。市民に利用され、活用されるよう工夫するとともに、限りある資源を有効に使うために、排架・除籍の工夫を行います。

主な 施策

①市民ニーズにあった資料の収集・提供

- 一般図書は、多様化する市民ニーズに合わせ、全分野にわたり、基礎的、入門的なものから専門的なものまで幅広く資料を収集します。開架・閉架書庫の蔵書能力を基に選書基準、除籍基準に沿って蔵書管理に努め、市民の暮らしに役立つ資料の蔵書に努めます。
- 児童書は、子どもたちが絵本に始まり、本を読む楽しさ、豊かな感性や想像力を高めることができるような資料を収集し、また、外国語の絵本などにより、小さいころから外国語に触れることで、国際感覚を身に付けられるよう外国語の児童書の充実を図ります。

- 視聴覚資料は、市民の趣味、教養、文化活動に資するための基本的な作品、著名な作品など DVD 中心に収集し保存しています。令和3年5月にリニューアルオープンした小坂井図書館では新たに視聴覚コーナーを設けました。
- 新聞・雑誌などの逐次刊行物は、基本的な資料を中心に多様化していく市民ニーズに対応し幅広い分野の雑誌と地方紙を含めた新聞の収集、提供をしていきます。また、雑誌については、「雑誌スポンサー制度」により、資料の購入に対する寄附者の募集を積極的に行います。
- 地図や地域情報資料、自治体の発行する行政資料、地域の歴史や民俗に関する出版物を収集、提供していきます。

②中央図書館の閉架書庫管理方法の検討

- 現在、中央図書館の閉架書庫は、建物の地下に設置されており、閉架書庫からの図書等の取り出しは、図書館システムから地下書庫管理システムへの取り出し要求に対し、機械により自動で地上階の窓口まで運搬される自動書庫が採用されています。
- しかし、施設の供用開始から22年が経過し、機械の老朽化による故障が頻発するようになり、利用者の皆さんに多大な不便をかけており、また、その修繕や部品の取替更新には、毎年度、かなりの費用が必要となっています。
- 中央図書館の所蔵能力は、地上の開架が15万冊、地下の閉架書庫が30万冊の計45万冊のところ、実際には令和2年度末現在、地上の開架が約23万4千冊、地下の閉架書庫が約31万2千冊あり、閉架の自動書庫の故障は、図書館運営にとって深刻な影響をもたらすものとして課題となっています。
- 今後、閉架書庫の更新も視野に、機械式の自動書庫以外の管理方式への変更も含め、より利用しやすい閉架書庫となるよう検討を行います。

③図書館視聴覚資料収集貸出業務と、地域情報ライブラリー業務の統合

- 地域情報ライブラリーは、豊川市の条例により設置された中央図書館とは別の公の施設として位置づけられていますが、その所在は中央図書館の2階事務室内であり、利用者からすると、1階の視聴覚資料コーナーとの違いが分かりにくいものとなっています。
- 各家庭への視聴覚機材の普及や音楽や映像のネット配信などが進んだことにより、近年、図書館視聴覚資料の貸出しや地域情報ライブラリー資料の貸出しも、共に利用が減少傾向にあります。資料収集をそれぞれ別々に行っているため、利用者がどちらに自分の求める資料があるか分かりにくいことも利用を妨げる一因となっていると思われます。
- 図書館法第3条で定める図書館奉仕の内容には、郷土資料や地方行政資料などの資料の収集と一般公衆の利用に供することや、鑑賞会、映写会等を主催し、及びこれらの開催を奨励することなど、地域情報ライブラリー条例第4条に定める映像資料の収集や提供を始め、ほぼ全ての業務が包含されるため、今後、条例のあり方も含め、両業務の統合について、より利用しやすいものとなるよう検討を行います。

④バーコード管理に変わる蔵書管理技術の調査研究

- 市図書館の蔵書管理は、図書等の所定の位置に添付された1次元のバーコードを利用して行っています。図書等の貸出・返却時や蔵書点検時などに、図書館システムに各図書等を認識させるためには、バーコードが添付された面を表に出し、ハンディタイプの読み取り機をバーコードに近づけて、一冊ずつ読み取りを行う必要があります。
- 他自治体で採用されている他の管理方式としては、情報を記録可能な小型の集積回路（IC タグ）を用いて電波により図書等を認識する方式や、カメレオンコードという複数の色をもつ小さな四角形を組み合わせたものを印字して本の背表紙などに貼りカメラなどで読み取って認識する方式など、一度に複数冊を読み取ることができる方式もあります。
- また、最近では、背表紙の画像そのものをデータベースに登録して、カメラで読み取った画像とデータベースに登録された画像を比較することで、一度に複数の図書等を読み取る方式なども開発されており、今後も ICT 技術の発展に合わせて、様々な方式が開発されることが予想されます。
- 導入費用や維持管理費用、経年劣化による読み取りエラーへの対応、職員や利用者の取扱いやすさなど、様々な要素を考慮して、市図書館の現状に最も適した管理技術を調査研究していきます。

地域情報ライブラリーの事業

本市では、市民の生涯学習をサポートするため、豊川市地域情報ライブラリーを設置しています。東三河地域の文化、行事、自然環境、遺跡等に関する映像資料を収集し提供しています。以下が主な事業内容です。

- 1 地域における映像資料の収集および提供
- 2 視聴覚機材・教材の貸出
- 3 市民名画劇場上映
- 4 ライブラリービジョンの運営

施策の方向(2) 多様な利用者に向けたサービス

乳幼児や児童、青少年、成人、高齢者、障害者、外国人など、多様な利用者に応じた各種サービスの充実を図り、誰もが利用しやすい図書館を目指します。

多様な利用者の利用を促進するため、関係機関、団体と連携を図りながら、きめ細やかなサービスの充実に努めます。

主な
施策

①子ども連れの来館者への配慮の充実や託児サービスの拡充の検討

- 市図書館には子ども連れの来館者が多く、特に中央図書館では、複数の読み聞かせ会の開催や児童コーナーでのオリジナルぬりえの無料配布など、子ども向けの施策を複数展開しているため、子ども連れの利用が目立ちます。
- そのため、乳幼児が保護者とともに絵本などに親しめるよう、また、子ども連れの保護者同士の交流の場となるよう工夫し、乳幼児と保護者へのサービスを充実します。
- 現在でも、講座や講演会などのテーマや対象者の設定に応じ、可能な場合には、ボランティアに依頼し、託児サービスを行っています。
- 今後、様々なイベントの拡充を進めるにあたり、子ども連れの方がより参加しやすくなるよう、託児サービスの回数や対象人数などの拡充について検討を行います。
- そのほか、利用者の意見などを踏まえ、オムツ替え台や授乳室をより利用しやすく改善するなど、子ども連れの来館者への配慮を充実します。

②小中学生へのサービス

- 小中学生が読書の楽しさを知り、積極的に読書活動を行うことができるよう、魅力的な図書資料の収集に努め、図書館内のテーマ展示を始め、様々な子ども向けの事業を実施します。

③高校生・大学生へのサービス

- 現在、豊川高校と御津高校の生徒の利用一括登録を実施して連携を進めていますが、今後も市内の他の高校との連携を進めるよう検討し、高校生や大学生の読書ニーズの把握と青少年向けの資料収集、将来の進路や職業等に関する情報など、多角的な情報提供を行います。

④成人へのサービス

- 市民の生涯学習活動やビジネスを支援するため、幅広いニーズに対応した資料や情報を収集し、積極的に提供します。
- ビジネス支援の観点から就職・転職、起業・職業能力開発、科学技術や産業、国際情勢の変化などに的確に対応できるよう資料の収集、提供に努めます。

⑤高齢者へのサービス

- 高齢者に配慮した施設整備を進め、大活字本や視聴覚資料の充実、拡大読書器の整備に努めます。
- 「人生 100 年時代」を迎えるようとする中、生涯学習やボランティア活動の機会の創出など、高齢者が能力を発揮できる場の提供や趣味や健康、福祉など高齢者を意識した資料の収集と情報の提供、いきいきとした暮らしや新たな関心につながる講座やイベントを行います。
- 関係する市福祉部門始め関係行政機関や社会福祉協議会、民間福祉団体などと連携・協力してサービス提供体制に努めます。

⑥障害者へのサービス

- 障害者差別解消法や読書バリアフリー法など、各種法令に基づき、障害者に配慮した施設整備や対応、サービス提供を行い、安全で安心して利用できる図書館づくりに努めます。
- 点字図書・録音図書の充実とそれに付随する拡大読書器や DAISY(デイジー)再生機など障害に対応した機器等の整備・充実に努めます。
- 障害者団体やボランティア団体との連携を図り、対面朗読を始めとしたサービスの実施や障害者対応における情報交換を行います。
- そのほかホームページの活用や電子図書館、サピエ図書館への加入継続、郵送貸出など、引き続き障害者への図書館利用サービスの充実を行います。
- 関係する市福祉部門始め関係行政機関や社会福祉協議会、民間福祉団体などと連携・協力してサービス提供体制に努めます。

⑦外国人へのサービス

- 市内に住む外国人は、6,921 人（令和 3 年 3 月 31 日現在）となっており、ブラジル、中国、フィリピン、ベトナム多くの国の外国人市民が市内に居住しており外国人市民向けの幅広い資料の収集や日本語学習資料の充実、生活に役立つ情報提供を行います。
- 外国人市民向けの図書館利用案内やホームページでのわかりやすい情報提供に努めます。
- 市民協働国際課や国際交流協会などと連携・協力してサービス提供体制に努めます。

⑧ボランティア等による図書館運営サポート体制構築の研究

- 中央図書館では、窓口業務の他、図書の排架や除却、書架の整理などの一部業務を委託により行っています。しかし、広いエントランスや書架において、限られた人数の委託職員だけでは、土日祝日などの混雑時に、来館者全員を細かくサポートできないこともあります。
- 他自治体での先進事例として、図書館に愛着を持ち、その運営をサポートしたいという有志をボランティアとして募り、腕章などを支給して一般の来館

者と区別できるようにし、エントランスでの館内案内や、書架の本の整理などを行ってもらおうという制度を導入している図書館があります。

- このような制度を導入することで、ボランティアの皆さんには、図書館の運営に携わることで、図書館により愛着を持っていただけるとともに、一般来館者の皆さんには、より利用しやすい環境を提供することができるため、市図書館においても、このような制度を導入可能かどうか、検討を進めます。

施策の方向(3) 貸出型だけでなく館内滞在型も

本を借りるだけでなく、学習したり自由時間を過ごしたり、交流を楽しんだりと多様な目的で来館する利用者が、それぞれ快適に過ごすことのできる居場所を提供します。

誰もが気軽に入りやすい市民の憩いの場として図書館の滞在性を高めるため、閲覧席の運用、配置の工夫などを行い、安心してくつろげる空間を確保します。

複合施設の核となる施設として、併設される施設の活用を積極的に行い、複合施設として魅力向上を図ります。既存の施設を生かしながら、気軽に立ち寄り、市民が集える多目的な場所としての図書館づくりを目指します。

①館内滞在型利用と学習利用も可能な閲覧席数の増加検討

- 図書館が利用されている度合いを評価する尺度として、図書や資料の館外貸出数が利用されることが多いですが、図書館の利用者数の中で、図書等の貸出サービスを利用せず、館内で図書を閲覧する方や、自ら持ち込んだ参考書などを用いて学習するなど、滞在型の利用をする方が（コロナ禍以前は、）近年、徐々に増えつつありました。
- 市図書館に気軽に立ち寄り、落ち着いて雑誌や趣味の図書を閲覧できる、また、くつろげるスペースを確保します。
- 市内の高等学校や市図書館近隣の中学校の試験期間中には、開館前に行列ができるほどで、時には座席を利用できずに帰っていただく方もあるため、今後、学習利用も可能な閲覧席数については、再度、レイアウトの見直しなどにより、増設を検討します。
- Wi-Fiによるインターネット接続環境の提供を今後も継続して行います。
- 一宮図書館については、今後、公共施設適正配置計画に基づくリーディング事業である複合施設の再編の都市機能誘導区域に誘導する施設としての役割を果たすため他の施設との配置や市民が滞留し、利用しやすい施設づくりを目指します。

主な
施策

②未使用時のジオスペース館施設を図書館施設として積極的に活用

- ジオスペース館施設は、プラネタリウムドーム、多目的ホールの2つの主要な部分のほか、プラネタリウムドーム前のふれあい談話コーナー、ジオスペース関係資料展示コーナー、ジオスペース関係映像映写コーナーで構成されています。
- プラネタリウムドームの未使用時には、発言した内容をリアルタイムに字幕として表示可能なUDトークを活用した、講座や講演会の開催、図書館コラボイベントや他部署主催のイベントの会場としての活用を検討します。
- 多目的ホールの未使用時には、市内高等学校や近隣中学校の試験期間中の学習利用も可能な閲覧席として活用できるよう、今後、移動式のテーブルや椅子の整備などを含め検討し、活用の幅を広げます。
- ふれあい談話コーナーについては、図書館まつり等の開催時に、高校等との連携による呈茶イベントなどの会場としての活用を継続します。
- 資料展示コーナーや映像映写コーナーは、ジオスペース関係資料や映像だけに限定せず、市政のPR資料や映像など、様々な情報提供が行えるように、有効活用の方法を検討します。

施策の方向(4) ICTを活用したサービス

ICT 関連の技術進歩は目覚ましく、市民の情報収集手段も大きく変容する中で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もあり、図書館の電子媒体による情報提供がより重要なものとなっています。

高齢化社会の進行に伴い来館困難者の増加が予想されることから、運用中の電子図書館を始め、ICTの活用による多様な非来館型サービスについて検討を進めます。

必要な資料や情報を適切に選択するためのICT活用環境を整備し、利用格差の解消に配慮した取組を推進します。

主な
施策

①電子図書館を始め非来館型サービスの研究

- 市図書館では、病気やケガ、障害など様々な理由により市図書館への来館が困難な方のために、パソコンやスマートフォン、タブレットなどで24時間いつでも利用が可能な電子図書館サービスを、平成28年2月から開始しています。
- また、それ以外にも、以前から、視覚障害による身体障害者手帳3級以上の方などに郵送での点字図書や録音図書の貸出しを行うほか、電話や電子メールによるレファレンスサービス、ホームページのマイページからの図書の貸出予約や貸出期間の延長も可能としています。
- 今後、感染症の拡大や予期せぬ災害などにより図書館への来館が困難となる事態が生じる可能性は常に存在するため、現在運用中の電子図書館を始めとする非来館型サービスを継続するとともに、ICTの活用など新たな技術やサービスにより、より多様な非来館型サービスを提供できるよう検討を進め、常に利用しやすい図書館を目指します。

施策の方向(5) 環境整備

小坂井図書館を除く他の市図書館では、設備の老朽化が進んでいます。中央図書館では、「豊川市中央図書館長寿命化計画」に基づき計画的な施設の修繕や機器更新など、適正な管理運営を行います。今後も中央図書館を中心とした身近な図書館体制をさらに推進します。

利用者が安全・安心に利用できるよう施設の維持管理に努めるとともに、快適に利用できる環境づくりに取り組みます。

①施設の長寿命化など適正な管理運営

- 令和3年5月に供用開始の小坂井図書館を除き、中央図書館と分館のいずれも、設備機器の老朽化により不具合が発生しています。
- 図書館を快適に利用していただくためには、適切な明るさの確保、快適な温度管理など、施設が正常に機能していることが必要です。
- 中央図書館については、令和元年度に策定した「豊川市中央図書館長寿命化計画」に基づき、計画的に施設の管理運営を行っていきます。
- 小坂井図書館以外の分館については、今後、小坂井図書館と同様に、市全体のファシリティマネジメントの一環として、周辺の公共施設との複合化などを検討する中で、施設の管理運営についても検討を行います。
- 小坂井図書館については、令和3年5月にリニューアルオープンしたところですが、来館者の意見をもとに、より利用しやすい施設となるよう、必要な改善に取り組みます。

②分館運営方法の検討

- 本市の分館（一宮・音羽・御津・小坂井）は、再任用職員又は嘱託職員が1名と、館の規模に応じてパートタイム会計年度任用職員4～6名が、常時2～3名の体制で業務を行っています。
- 以前は、4館全てに再任用職員が配置されていましたが、近年、市の退職者の人数が減少傾向となり、新たな再任用職員を分館に配置することが難しくなり、現在は内2館が元再任用職員を任用期間終了後に嘱託職員として配置しています。
- 今後、ますます再任用職員の配置が困難となることが予想されるため、分館の管理運営方法について、業務委託や指定管理者制度の導入などを含め、利用者への影響や費用対効果などを考慮し、検討を行います。

③駐車場の整備（自動車の大型化に対応した駐車区画の見直し検討）

- 中央図書館や各分館の駐車場は、施設の建設時点の自動車の大きさに対応した設計となっています。令和3年5月に供用開始の小坂井図書館を除き、1台ごとの駐車区画が狭く、来館者から駐車が難しいとの声をいただくことが多くあります。
- 自動車が大型化している現在の状況を考慮し、駐車区画のレイアウトなどを見直し、より利用しやすい駐車場となるよう検討を行います。

基本目標 2 人が集まる図書館

人が集まり、本を通じて人と人がつながる場の創出に向けて、本に関連するイベントや交流の場の提供を行います。

また、子どもの読書活動の推進し、保育園や学校などの教育機関と連携した取組を行い、読書や図書館利用に対するハードルを下げ、「また図書館に来たい」と思えるような環境を作り、利用が継続するようにします。

アフターコロナを見据えて「人が集まる」図書館となるよう、複合施設を含めた新しい活用法を検討します。

施策の方向

- (1) 図書館に親しみを持つイベント等の実施
- (2) 子ども読書活動の支援

施策の方向(1) 図書館に親しみを持つイベント等の実施

図書館が市民にとってより身近な施設となるように、「図書館まつり」をはじめとしたイベントや講座を開催するとともに、図書館公式キャラクターを活用するなど情報発信機能の充実を図ります。

また、より多くの市民が図書館に親しむことができるよう、ボランティア団体と連携・協力し、本を通じて市民が集う場や機会の拡充を図ります。

主な
施策

①図書館まつり等の図書館に1日中滞在して楽しめる事業の継続的实施

- 平成28年度からスタートした「図書館まつり」事業は、平成27年度に開催した「子ども読書活動推進計画策定委員会」の委員から提案された「読み聞かせなどの小一時間で終了する単発の事業だけでなく、図書館に丸1日滞在して、家族みんなで楽しめるようなイベントを開催することで、より多くの来館者を生み出せる」との意見に基づくものです。
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防ぐため中止となりましたが、コロナ禍が収束した後は、中央図書館の主要事業として、春と秋の2回、「図書館まつり」を継続的に実施していきます。

②図書館公式キャラクターの活用

- 平成28年4月に児童コーナーで無料配布開始したオリジナルぬりえのキャラクターは、翌月以降の企画図書展示やイベントでの活用を行っていました。当初は名前の無いキャラクターでしたが、来館者の皆さんから名前を聞かれることが多く、その年の図書館まつりの開催告知と合わせて名前を公募し、図書館まつりで投票により名前を付けるなどのイベントを開催し、集客に役立っています。今後も、ぬりえや企画図書展示での活用を継続するとともに、より「人が集まる」図書館となるよう新しい活用法を検討します。

③ぬりえ作成講座の実施と、ぬりえ作成ボランティアの募集育成

- 中央図書館児童コーナーで無料配布しているオリジナルぬりえは、毎月1,000枚、多い時には2,000枚以上も配付実績があり好評を得ていますが、図書館職員1人で作成しているため、今後の人事異動等によっては、継続が困難になる可能性もあるため、ぬりえ担当職員を講師とした「ぬりえ作成講座」を実施し、将来的には講座を修了した方の中から「ぬりえ作成ボランティア」を募集、育成し、人事異動等に影響されない体制づくりを検討します。

④各館のイベントの開催

- 現在、市図書館の全館で取り組むイベントとしては、図書館に関するクイズに挑戦できる「図書館検定」と、各館に登録のボランティアによる読み聞かせを行う「おはなし会」があり、中央図書館では、そのほか朗読会や人形劇、手作り絵本などのワークショップ、おはなしコンサート、子育て講演会など図書館ならではのイベントを開催しており、各分館でもそれぞれの状況に応じて個別のイベントの開催を行っています。
- こうしたイベントには、市民が持つ様々な知識や技術も欠かせません。図書館職員が直接行うより、ボランティア団体の協力を得て行う方が効果的な場合もあります。市民やボランティア団体と連携・協力してイベントの開催を行っていきます。

⑤他部署と連携したコラボイベントの拡充

- 図書館の関連イベントだけでは、毎年、類似したイベントメニューとなってしまう、来館者にマンネリ感を与えてしまいます。今後は、他部署等の主要施策をPRするためのイベントの会場として、中央図書館の集会室や多目的ホールなどを提供し、会場の出入り口付近に、そのイベントに関連した図書をブックトラックで展示や貸出をしたり、そのイベントと連動した「図書館コラボ展示」を開催するなど、市政等のPRと市民への情報提供を両立させる事業である「図書館コラボイベント」の開催回数を増やし、これまで以上に幅広いジャンルに対応したイベントの開催により、これまで図書館に馴染みのなかった方々でも参加したくなるような情報提供を行うよう、イベントメニューの拡充を進めます。

⑥国際化に対応した図書館サービスの展開

- 中央図書館の一般書架や児童コーナーには、外国語で記述された図書等も排架していますが、今後は、これらの充実を図るとともに、令和3年度に市と包括連携協定を結んだ御津高校との連携により、国際教養科の生徒たちによる外国語での絵本などの読み聞かせや、外国の絵本の読み聞かせなど、国際化に対応したサービスの展開を行います。

⑦ ジオスペース館プラネタリウム施設の図書館運営への有効活用の研究

- 中央図書館は、建物北側にプラネタリウム施設を擁する文化施設「ジオスペース館」が併設されています。このジオスペース館でのイベントやプラネタリウム番組の集客力は、入口を同じくする図書館エリアへの集客率の向上にも大きく影響するため、中央図書館とジオスペース館について、図書館運営への有効活用を研究し、より人が集まる図書館となるよう工夫します。
- 特にジオスペース館のプラネタリウム施設には、「UD トーク」という、マイクに向かって話した日本語を、自動的に漢字かな交じり変換をして、リアルタイムに読みやすいテロップを表示できるシステムが採用されているため、プラネタリウム関係のイベントだけでなく、様々な分野・テーマでの講演会等の開催が可能であり、これまで参加が難しかった聴覚障害者の皆さんを始め、音声でのコミュニケーションに支障がある方の参加を促進することができるため、市の他部署などにも呼び掛け、有効活用をしていきます。

施策の方向(2) 子ども読書活動の支援

子どもを取り巻く環境はスマートフォン等の急激な普及などにより、大きく変化し、読書離れが懸念されています。このような状況を改善するには、本の魅力を子ども達に伝え読書活動を推進する必要があるとあり、別途定める「豊川市子ども読書活動推進計画」に基づき、きめ細かな子どもの読書環境整備を推進していきます。

特に、読書や図書館利用のハードルを低くする働きかけや、身近な学校の役割を重視した取組を展開し、市図書館の児童サービス及びティーンズ向けサービスの充実を図っていきます。

主な
施策

①マンガ・ラノベコーナーの拡充とティーンズコーナー、一般書架との連携強化

- 「マンガ・ラノベコーナー」は、平成 28 年 3 月に策定した「子ども読書活動推進計画」の実施計画に掲げる取組の一つとして、中央図書館の 2 階通路に新設したコーナーで、子どもたちの読書活動の入口として、読みやすく、読みたくなるようなマンガやライトノベルを集めた、第 2 のティーンズコーナーです。開設以降、大変好評で、子どもだけでなく、幅広い年齢の方に利用されています。図書館に親しみを持ってもらうことを第一の目的としたため、このコーナーの本は館外貸出を不可とし、館内滞在型の利用の促進につながっています。
- 「ティーンズコーナー」は、「ヤングアダルトコーナー」と呼ばれることもある、10 代の青少年向けの図書を集めたコーナーで、こちらは館外貸出も可能としています。現在、マンガ・ラノベコーナーの拡充を優先していますが、今後は、ティーンズコーナーの本も、より多くの 10 代の青少年の利用がされるよう、蔵書の充実を行うとともに、マンガ・ラノベコーナーや一般書架とも連携した図書展示を工夫します。

②小中学校との連携

- 市内の小中学校と連携し、子どもたちの読書意欲を喚起し、自ら進んで読書活動を行うことができるよう「マイブックプロジェクト事業」や「うち読事業」を実施し、また、図書館を知ってもらうための「図書館体験会」や「職場体験」など学校における教育活動との連携を進めます。

マイブックプロジェクト事業（H24 年開始）

市内の全中学 2 年生を対象とした事業です。一定金額の本市独自の図書購入券を配付し、生徒が自ら読みたい本を市内の書店にて購入します。購入した書籍は本人が読んだ後、学級内で回し読みを行います。学級文庫の充実、後輩学年への継承等を通して読書活動の推進を図る事業です。

（第 2 期豊川市教育振興基本計画に基づく主要事業）

「うち読」の普及・啓発の促進

子どもと保護者が一緒に本を読む習慣づくりを後押しするため、「うち読」ノートの配付や「うち読」に適した本の展示・紹介などを行い、家庭における読み聞かせ等の普及・啓発に取り組んでいます。

図書館体験会（H30 年開始）

市内の小学校 4 年生に対するバスでの送迎付きのプラネタリウム見学会の機会を利用して、プラネタリウム上映前に、図書館での本の利用の仕方を体験してもらおうというアイデアを実現したものです。平成 30 年から開始された事業ですが、年々実施校が増えています。

基本目標 3 ためになる図書館

知と情報の拠点として、市民の知識欲に応えることのできる取組を進めます。

レファレンスサービスは、貸出サービスと同様に図書館サービスの柱となるものです。レファレンスサービスを充実させ、市民と資料・情報を結びつけ、市民の課題解決を支援します。市民の暮らしの課題や本市の特徴を踏まえた地域資料、時事的な話題についての資料を積極的に収集し、課題について調べるための手引書（パスファインダー）を作成し活用します。

また、ホームページや SNS 等の活用による積極的な情報発信を行い、庁内の関係課などとの連携のもと、ビジネスやキャリア形成に関わる情報を積極的に発信します。

市役所関係各課や学校などと連携し、市図書館だけでなく地域全体の魅力向上を図ります。

地域情報の提供・発信の拠点として、長期的な視点で地域の文化の継承・発展に取り組みます。

細分化したニーズに柔軟に対応していくとともに、多様な主体との連携により、「ためになる」図書館を目指します。

施策の方向

- | |
|-------------------|
| (1) 課題解決支援の充実 |
| (2) 情報発信の充実 |
| (3) 他部署との連携 |
| (4) 地域資料の収集・活用・継承 |

施策の方向(1) 課題解決支援の充実

レファレンスサービスの周知を図り、初めてサービスを利用する市民でも気軽に利用できるような環境を整備します。高度情報化社会の進展を踏まえ、対話を通じたより有益な情報の提供や、利用者自身が資料や情報にたどり着くためのツールの充実を重視します。

主な
施策

- ① **レファレンスサービスの充実、レファレンス協同データベース活用と積極参加**
- 「レファレンスサービス」は、利用者の相談を受けて、利用者が調べたい資料や情報について、その資料や情報の探し方や資料の排架場所などを案内するなど、調べものの手伝いをするサービスです。単に図書に関する知識があるだけでは務まらず、利用者の真に調べたい内容を聴き取るヒアリング能力やインターネットを利用した Web 検索の技術など、質の高いサービスを行うため、図書館職員のスキルを高められるよう、愛知県図書館などが主催する研修等に積極的に参加し、サービスのさらなる充実を進めます。
 - 「レファレンス協同データベース」は、国立国会図書館が全国の図書館等と共同で構築しているレファレンス結果の検索サービスです。利用者からの相

談に迅速に応えられるよう、過去にこの協同データベースに掲載された情報などを積極的に参照するとともに、市図書館での事例についても、この協同データベースに登録可能なものは、登録を行っていきます。

②調べる学習コンクールへの参加、学び支援事業の検討

- 「図書館を使った調べる学習コンクール」は、公益財団法人図書館振興財団が主催する事業で、参加者が身近な疑問や不思議に思うこと、興味があることなど、自由にテーマを決めて、公共図書館や学校図書館の本を使って調べ、見る・聞くなどの体験や、実地調査なども取り入れながら、どのように調べていったのか、その結果何がわかったかをまとめた作品をつくり応募するコンクールで、知的好奇心や情報リテラシー、読解力、思考力、言語力を磨くことができる「ためになる」事業です。現在、市図書館では開催の実績がありませんが、今後、地域コンクールを開催できるよう検討します。
- 人生 100 年時代の到来を迎えようとしている今、「調べる学習コンクール」以外にも、子どもから大人まで、あらゆる世代が、思い立ったら即、図書館の本を使って学ぶことができるよう、あらゆるジャンルの蔵書の充実とレファレンスサービスの向上を進めます。

③オリジナルパスファインダーの作成

- 図書館における「パスファインダー」は、別名「調べ方ガイド」や「調べ方案内」と呼ばれ、ある特定のテーマについて調べようとするときに、役立つ図書資料などの情報源や、図書を使った調べ方などを紹介した手引書です。今後、市図書館が目指す「課題解決型」の「ためになる」図書館を実現するために、市図書館が所蔵する地域資料などを用いた、本市ならではのオリジナルパスファインダーを作成、充実していきます。

④パソコン利用席や無料 Wi-Fi の継続又は拡充

- 中央図書館の「パソコン利用席」は、平成 28 年 2 月に、主に地域資料を使って研究を行う方のために、地域資料コーナーの南側カウンターに、パソコンの充電のための利用が可能なコンセントを増設・運用を開始し、以後、多くの利用者に利用され好評を得ています。
- また、令和 3 年 5 月に供用開始された新しい小坂井図書館には、住民からの要望を受け、閲覧席の東面カウンター席に、中央図書館同様にコンセント付きのパソコン利用が可能な席を設けています。
- 無料で自由にインターネット接続が可能な無料 Wi-Fi については、中央図書館と小坂井図書館で利用が可能で、館内のほとんどの場所で、パソコンだけでなく、スマートフォンやタブレットによるインターネット接続が可能となっており、利用者の情報収集のために有効に活用されていることから、今後も現在の運用を継続します。また、今後の利用状況を見て、拡充の必要性などについても検討を行います。

施策の方向(2) 情報発信の充実

市図書館のホームページ、図書館だより、SNS 及び報道への情報提供など、様々な場所や媒体で情報を発信します。

庁内の関係課などとの連携のもと、ビジネスの課題の解決につながる資料や若者を対象としたキャリア形成に関わる情報を積極的に発信します。

①ホームページのコンテンツの充実と SNS 等の活用による積極的な情報発信

- 市図書館のホームページについては、平成 28 年 12 月の図書館システムの更新に合わせて現在の形となり、以降、市図書館や中央図書館に併設のジオスペース館、地域情報ライブラリーの利用方法やイベントなどの情報を積極的に公開・更新しています。SNS については市民からの要望を受け、平成 28 年 4 月 1 日から、Instagram、Facebook、Twitter の 3 つのサービスを採用して、原則、図書館の休館日を除き 1 日 1 件以上の記事を投稿しています。
- 今後も、現在のホームページと SNS により積極的に情報発信を行いますが、ホームページについては、概ね 5 年毎の図書館システムの更新に合わせてレイアウトなどを見直し、より利用しやすいものへと改良します。
- SNS で発信する記事については、単なる図書館からのお知らせにとどまらず、「今日は何の日」などの豆知識や市の他部署の制度やイベントを紹介するなど、「ためになる」情報も積極的に発信していきます。

主な
施策

②ブックトークやビブリオバトルの紹介

- 「ブックトーク」は、特定のテーマに関する一連の本を、エピソードや主な登場人物、あらすじも含めて、一つの流れができるように順序よく紹介する活動のことです。
- 「ビブリオバトル」は、複数の参加者がそれぞれ自分が読んで面白いと思った本について、判定役の聴衆に制限時間内のプレゼンテーションを行い、最終的にどの本が最も読みたいと思われたかを投票で競うゲーム性の高い競技です。
- 市図書館の使命として、これまで文字や活字に縁遠かった方に、読書の楽しさを伝え、市図書館を活用してもらうよう PR していく必要がありますが、しかし、いざ読書を始めてみようと思っても「何を読んだらよいのか分からない」という方も多いため、ブックトークやビブリオバトルなど、本の魅力を紹介するイベントについて、近隣での開催情報などを来館者に提供します。ビブリオバトルは、参加者と一定数以上の判定役の聴衆が必要なため、まずはブックトークについて、市図書館のボランティアや職員が話者となってお勧めのテーマの本を紹介するイベントを開催します。

③起業支援・就職支援・進学支援の充実

- 「起業支援」は、「創業支援」や「ビジネス支援」などとも呼ばれ、地域の活性化施策の一つとして、経済社会の活性化をテーマに、自ら事業を起こし、経済活動に貢献しようという方に、経営者となるために必要な知識やノウハウ

ウ、手続きや行政などからの支援など、必要となる情報を積極的に提供し、市図書館を起点とした地域経済の活性化を図るものです。既に、商工観光課などとの「図書館コラボ展示／イベント」により、中央図書館を会場とした説明会などを開催していますが、各種手続きに必要な書類などをいつでも市図書館で手に入れられるようにするなど、さらなる支援の充実を進めます。

- 「就職支援」としては、現在、10代の青少年を対象としたティーンズコーナーやマンガ・ラノベコーナーに、スポーツや芸術を含む様々な職業をテーマとした小説やマンガなどを排架し、将来の職業選択の参考となるような選書を心掛けています。また、様々な職業人になるための情報を掲載した「なるには Books」シリーズについては、大学などの学部についても紹介するなど、進学と就職の両面で役に立つ本が発行されているため、積極的に収集し、提供していきます。
- 近年は就職に際し、インターネットを通じた「Web 面接」による採用が広まりつつありますが、就職活動をしている方の中には、ネット環境や面接を受けるための個室を用意できない方もいます。そこで、現在は複数人での研究目的の利用に限定して利用可能な「グループ研究室」を、就職活動のための Web 面接等のために提供することが可能かどうか、検討を行います。

施策の方向(3) 他部署との連携

市役所の関係各課や他の団体、市内の学校との連携を進めることで、図書館利用の促進だけでなく、地域全体の魅力向上を図ります。

主な
施策

①図書館コラボ事業の拡充（展示は内容を検討しつつ継続。イベントは多様化し増加）

- 「図書館コラボ展示」は、市の他部署や関連団体と連携し、他部署等の主要施策などを PR するとともに、その施策に関連した中央図書館所蔵の図書を多数集めて展示・貸出することで、市政等の PR と市民への情報提供を両立させる企画展示で、来館者からの評判も良く、全国の他自治体の図書館からも視察の申込みがされるなど高く評価されているため、今後も内容がマンネリ化しないように工夫しながら継続します。
- 「図書館コラボイベント」（再掲 P37）は、「図書館コラボ展示」と同様に、中央図書館に本を借りて来たついでにイベントに参加できるため、参加者からは好評を得ていますが、現在はまだイベントの種類や実施実績が少ないため、参加者や他部署等からの意見を参考に、今後、イベントの内容などを検討し、実施回数を増やしていきます。

②図書館職員・市役所職員を講師とした講座の拡充

- 市図書館には司書資格を持った職員のほか、市役所の各部署での配属経験を持つ専門知識や技能に秀でた人材が配属されることもあり、また、近年では「図書館コラボ展示／イベント」で、市の各部署と市図書館の連携も深まってきており、図書館職員や市役所職員を講師とした講座等の事業を、比較的容易に企画することが可能となっています。予算に縛られることなく、また、感染症の感染拡大時などで県をまたぐ遠方からの講師を招聘できない場合などにも対応できるため、今後、図書館職員や市役所職員を講師とした講座等の実施について検討を進めます。

③学校連携の推進（マイブックプロジェクトの継続。学校行事の PR 協力。学校配送図書セットの充実など）

- 「マイブックプロジェクト」は、市内全中学校の2年生に中央図書館が専用の図書購入券を配付し、生徒自らが書店へ赴き、自分たちが読みたいと思う本を購入し、学級文庫や他学年との読書体験を共有することで、本を買うことの楽しさや読書への興味を抱いてもらう事業で、平成24年度以来継続して実施していますが、毎年、参加生徒や教職員からも好評で、教育委員会や教育行政事務点検評価委員会からも高い評価を得ており、継続実施が求められていることから、今後も学校と連携し、より良い精度となるよう実施方法の見直しを検討しながら継続します。
- 中央図書館や分館の展示エリアなどに、市内の小中学校が作成した運動会や文化祭などの行事を PR するポスターなど、各学校が作成した学校を紹介する展示物などを掲示し、地域と学校を結びつける場を提供できるよう連携を図ります。

- 「学校配送図書セット」は、小学校の各学年の授業内容に沿ってテーマ別に100冊の図書をセットにして、小学校の教職員からの申込みに応じて貸し出しを行うもので、現在は33セットを用意しています。需要が高いため、今後も学校と協議しながら定期的にセット内容を更新し、貸し出しを継続します。

図書館コラボ展示（H29年開始）

豊川市役所他部署等と連携し、テーマに沿った図書展示を行なうことで、施策や取組をPRしています。

健康や介護保険、不登校、起業支援などをテーマに中央図書館玄関ロビーの場を提供し、企画や展示内容は担当部署で考え、中央図書館側はその関連本を並べています。効果としては、普段あまり貸し出しされない本が借りられること等があります。市役所関係以外に県の保健所や農協、商工会議所などの団体と実施しています。

施策の方向(4) 地域資料の収集・活用・継承

後世に伝えていくべき郷土や文化財に関する資料の収集と保存に努めることは図書館の役割のひとつです。豊川市の文化や歴史に関する郷土資料や、本市固有の行政資料、地域刊行物など、地域の記録や情報は市民の大切な財産です。

資料の収集や保存だけでなく活用を推進し、長期的な視点で、作り手の育成支援や地域絵本の作成の取組を通して地域情報の提供・発信の拠点として地域の文化の継承・発展に寄与します。

主な 施策	<p>①豊川市を舞台とした小説や絵本、マンガなどの作り手の育成支援</p> <p>○現在、中央図書館単独企画の図書展示として「豊川出身人物と豊川ゆかりの人の図書展」等を毎年開催し、多くの来館者から好評をいただき、展示した図書も多数貸し出されています。今後も未永く、この企画図書展示を好評のまま維持していくためには、古い本だけでなく、これから未来に向けても、豊川市を舞台とした作品や豊川市出身者が登場する作品などが生み出されていく必要があります。そこで、既存の作品を展示・貸出するだけでなく、今後、豊川市を舞台とした小説や絵本、マンガなどの作り手を育成し、支援する事業についても検討を行います。</p>
	<p>②図書館公式キャラクターを使用した地域の昔話などの地域絵本の募集</p> <p>○市図書館の公式キャラクター「とびら&しおり」は、平成 29 年に開催された第 19 回図書館総合展の中の企画「第 3 回図書館キャラクターグランプリ」にて、審査委員会賞を受賞したほか、毎月月替わりで発行し児童コーナーで無料配布している市図書館オリジナルぬりえや図書館まつりでのマスコットキャラクターとしても好評を得ており、年々知名度も向上してきています。そこで、このキャラクターを使用して、この地域の昔話やゆかりのエピソードの絵本を作成し、市図書館の PR と合わせて地域の昔話の普及を進めます。地域絵本の作成にあたっては、話題性を高めるため、一般市民から作品を募集するなどの工夫を検討します。</p>
	<p>③地域資料や行政資料の電子化、データベース化の研究</p> <p>○貴重な地域資料や毎年累積していく行政資料については、地域の研究などに利用されています。これらを電子化し、データベース化することで、所蔵スペースの節約ができるだけでなく、利用者にとっても検索性や参照性が向上し、より活用しやすくなります。これにより地域の研究などがより活発に行われることが期待できるため、電子化等について研究を進めます。</p>

第6章 計画の推進に向けて

6-1 計画の推進体制

(1) 図書館協議会への報告と評価による進行管理

- 目標に基づく具体的な施策の実施状況等を踏まえ、設定した指標を用いて客観的に進捗状況を点検・評価します。
- 計画全体の進捗状況については、図書館協議会に報告し評価を受けます。
- 図書館協議会の評価をフィードバックし、施策の実施や進行管理に努めます。

(2) 分かりやすい情報発信・情報開示

- 計画の進捗状況や点検による評価結果をはじめとした情報については、従来の図書館概要による情報発信と合わせて、市HPやSNSを活用し、幅広い世代に、分かりやすく・獲得しやすい形での情報発信・情報開示に取り組みます。

資料編

資-1 法律、条令、規則等

図書館法

豊川市図書館情勢

豊川市図書館管理規則

図書館の設置及び運営上の望ましい基準

資-2 アンケート調査の結果

別冊

資-3 用語解説

(今後記載予定)

